PLAYS 800 / 1000

取 扱 説 明 書

このたびは、シマノ PLAYS 800/1000 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

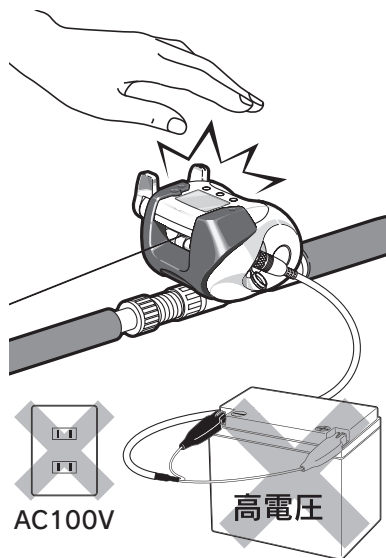
ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警告

高温注意

●バッテリー、船電源の所定電圧（ＤＣ１２～１４.８ボルト）以外を使用しないでください。
所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。

●家庭用交流電源につながないでください。
回路が破損し発火発煙の恐れがあります。

●電源コネクターやワニロクリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。

⚠ 警告

警告

●電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。
そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を一つ上げてご使用ください。

警告

●バッテリーマーク（ B または ▮ ）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用下さい。

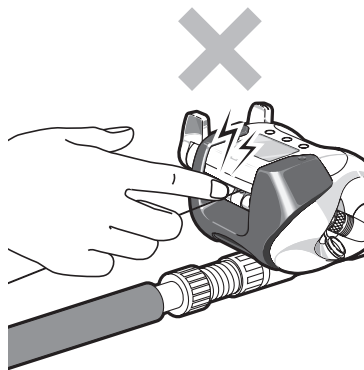
警告

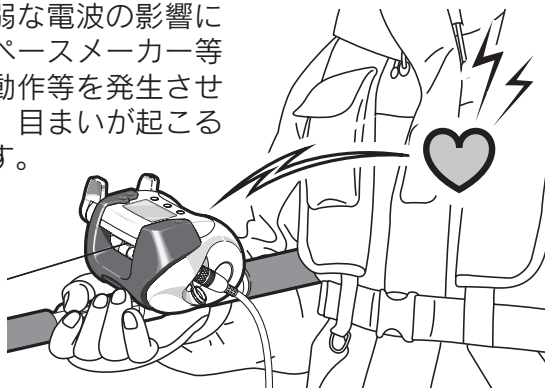
●船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。
デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（ B または ▮ ）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

⚠ 警　告

指をはさまれないよう注意

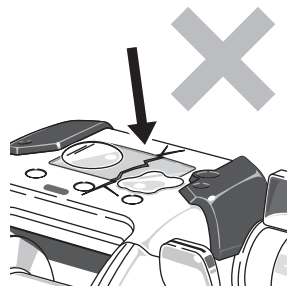
●糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。

●ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。

●電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させご使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。

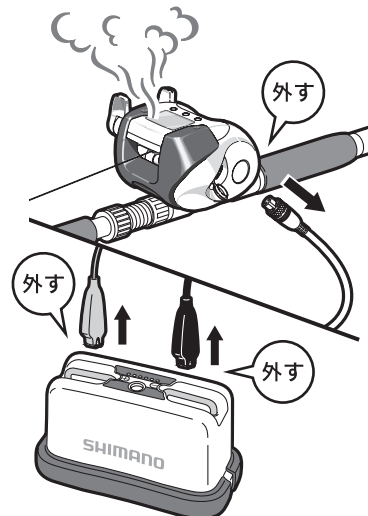
警告

⚠ 警　告

警告

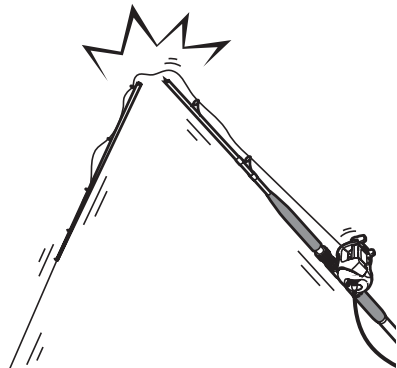
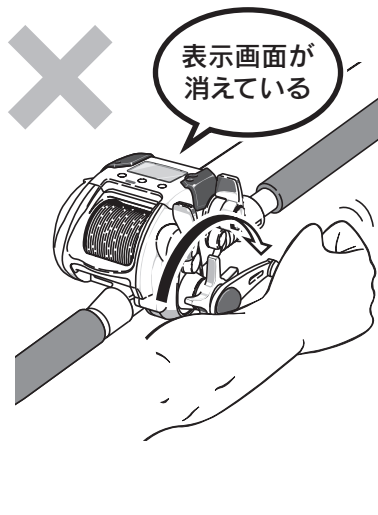
●カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。

●電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。

警告

●電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。

●巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニロクリップを外してください。

⚠ 注 意

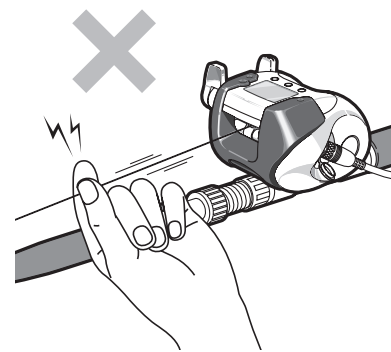
注意

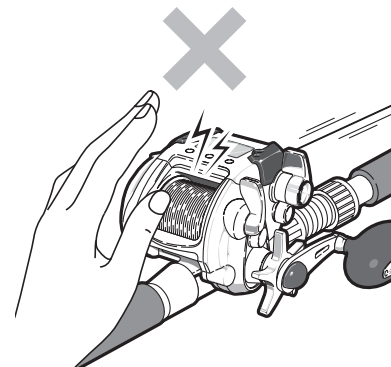
●電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。
場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。

⚠ 注 意

注意

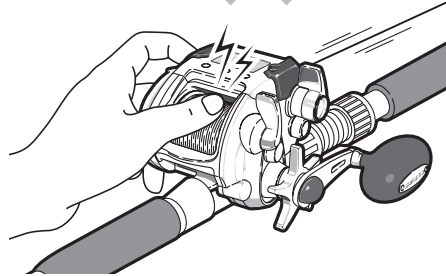
●メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。

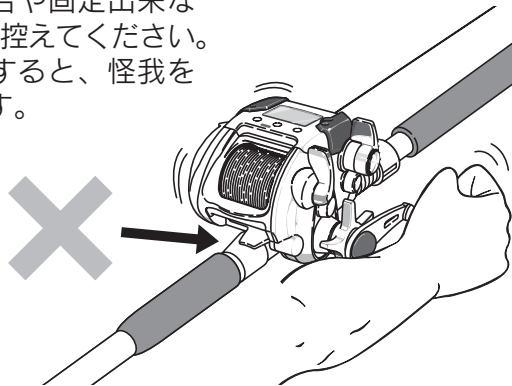
指をはさまれないよう注意

●糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。

回転物注意

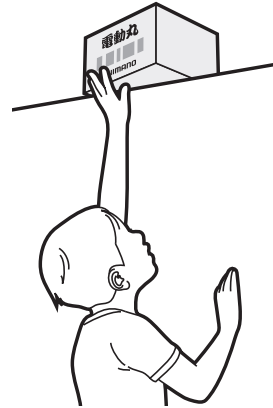
●回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。

⚠ 注 意

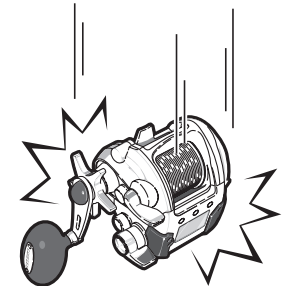
回転物注意

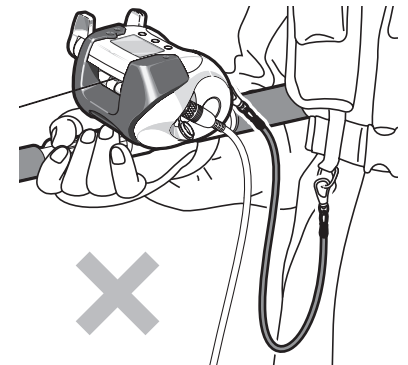
●指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。
指を怪我したり、切断する恐れがあります。

注意

●電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。
ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。
釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。

⚠ 注 意

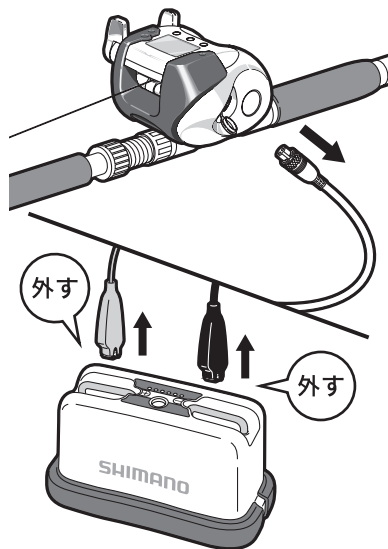
注意

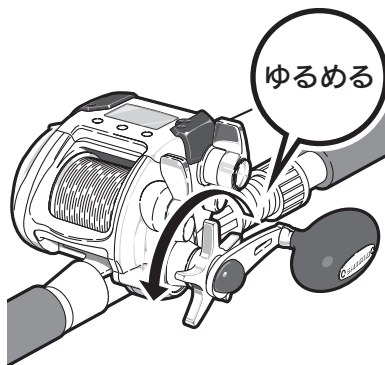
●幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。

注意

●落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。
強い衝撃が加わらないようにしてください。

注意

●ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。
魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。

注 意

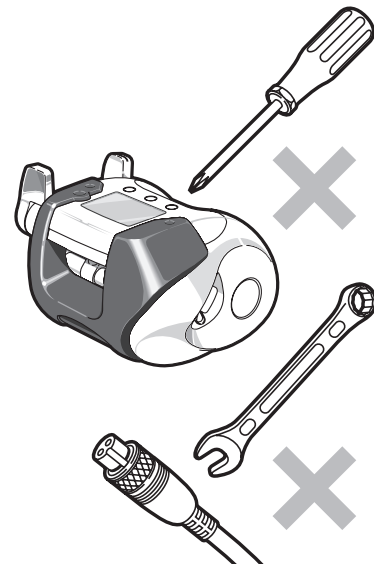
注意

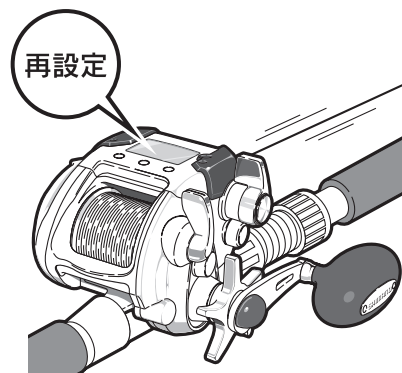
●釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。
急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。

注意

●電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。
故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。

注 意

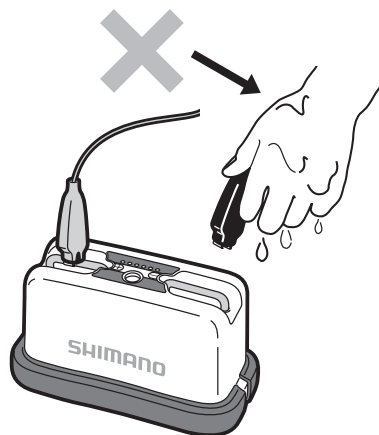
分解禁止

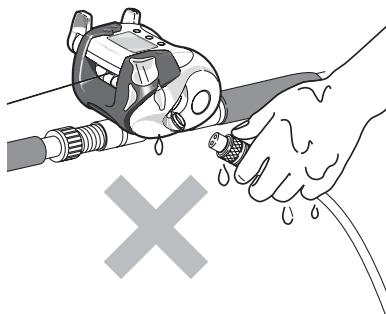
●本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。

●ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。

注意

●船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズレる事があります。停止位置がズレてきた場合は「0セット」して補正してください。
停止位置がズレると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。

注 意

注意

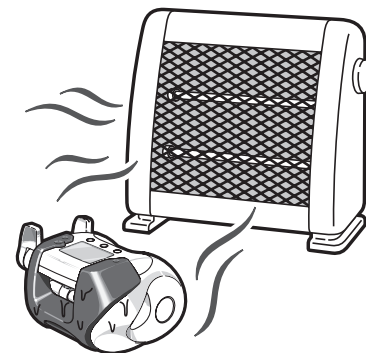
●濡れた手でケーブルのワニロクリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らいないでください。感電する恐れがあります。

注意

●ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。
濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。

注意

●根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

注 意

注意

●メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。

モーターの誤作動についてのご注意

●本電動リール表示部は１０ｍの耐水圧性能により防水が確保されています。
しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。

●本電動リールの使用電源保証範囲はＤＣ１２～１４.８Ｖまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。

糸ふけを取る時やさそいをする時に…

チョイ巻。 P11～12参照

ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。

コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…

棚タイマー。 P11参照

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

糸落のスピードを安定させ、釣果UPに…

糸落スピードの目安を表示。 P11参照

魚の大きさや匹数の目安などに…

電動巻上負荷表示。 P11参照

穂先への仕掛巻込防止機能・アタリをお知らせ…

フカセモード。 P44～45参照

フカセモード時は「仕掛巻込防止機能」、「アタリ検知アラーム」の2つの機能が有効になります。

錆、塩噛みに強いボールベアリング…

シールドタイプS A-RB内蔵。 P40参照

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させた S A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現！ A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させています。

2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。 P42～43参照

ラインテンション一定の「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパーII

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。

このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現。

さらに磨きのかかった…

ハイスピード＆ハイパワーを装備。

軽いオモリでも底取り簡単…

スーパーフリースプール。 P15・40参照

クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

ご注意：クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0（ゼロ）セット。

P37～38参照

シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。

竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止。

P40～41参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。

高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正。

P39参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。

レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…

テクニカルレバー。

P14・42～43参照

プログラマ不要の新SLS方式…

SLS III（シマノ・ラインプログラム・システム3）搭載。

簡単・便利になりました。
より正確な棚取りが可能です。

P18～33参照

カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…

糸巻学習補正。

P46～47参照

探見丸システムを組み合わせれば、
さらに便利に！

船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P10・48～49参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

釣技の再現がさらに便利に、詳細に設定可能…

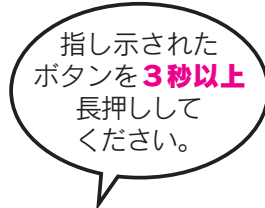
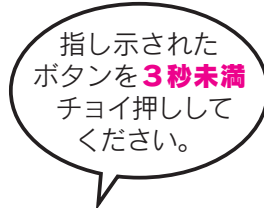
テクニックマスター。

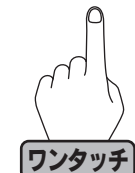
P48参照

釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター（TM）が、探見丸で便利に操作できます。あらかじめインプットされた代表的なさそいパターンの使用や、さそい幅の指定などが可能です。また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

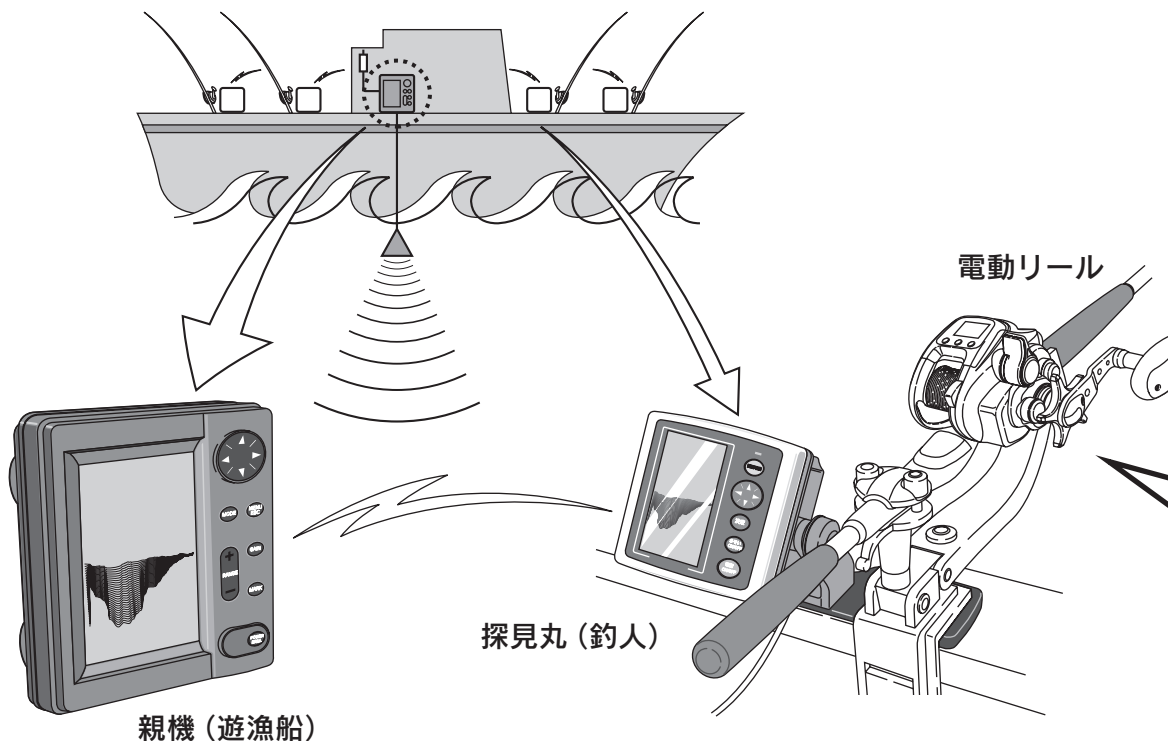
本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…

指し示されたボタンを**3秒未満**チョイ押ししてください。

指し示されたボタンを**3秒以上**長押ししてください。

ご注意：
本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは、例として表示している場合があります。
全く同じ表示になるわけではありません。

探見丸システムについて（探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 48 ～ 49 ページへ！）

探見丸システム　親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。

さらに探見丸システム対応電動リールと組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動リールの操作が探見丸で可能に
［さそい、棚停止、オートシャクリetc.］

2. 電動リールからのデータを探見丸で表示
［リール水深、棚タイマーetc.］

3. 双方のデータを組み合わせて より便利な情報を表示
［シカケ軌跡、さそい幅etc.］

※この電動リールでは棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動リールの機種によって使える機能は異なります。

この電動リールは探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 48 ～ 49 ページをご覧下さい。

デジタルカウンターの各部の名称

Tankenmaru System

チョイ巻　0セット　楽/速　設定

◎テクニカルレバーの設定値
楽楽モード、速度一定モードの
設定値を表示しています。

◎棚タイマー
仕掛けが目標の棚に到達してからの
経過時間を表示します。
※0～59秒は1秒単位、1～99分は1分単位で
表示します。100分経過すると0秒に戻ります。

◎糸落スピード表示
糸落のスピードの目安を表示します。
※表示中は“(　)”が点滅します。

◎各種表示

速：速度一定モード時に点灯します。
⚡：探見丸と接続時に点灯します。
🔋：バッテリーまたは電源の電圧を
下図のようにお知らせします。

🔋：充分な電圧（点灯）
🔋：やや不足した電圧（点灯）
🔋：不足した電圧（点滅）

◎現在の水深
水面からの水深を表示します。
※水深は10cm単位です。100m以上は
下図のように1m単位になります。
99.9→100

◎電動巻上負荷表示
モーターで巻上げ時、ラインテンション
の目安を表示します。負荷の大きさによ
り、数字が「0～9」まで変化します。

◎フカセモード
フカセモード時は“(　)”が消えます。

■楽/速・設定ボタン

ワンタッチ

**押すごとに速度一定モードと
楽楽モードの切り替えができます。
巻き上げ中の操作も可能です。**
現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。
楽楽モード：緑のバックライト
速度一定モード：赤のバックライト（「速」点灯）

3秒以上

**チョイ巻スピードとフカセモード時の
アタリ検知アラームのスピードを設定します。**
チョイ巻のスピード設定は **P12** へ
フカセモード時のアタリ検知アラームの
スピード設定方法は **P13** へ

■チョイ巻ボタン

ワンタッチ

**ボタンを押している間、電動で
巻き上げることができます。**
巻き上げの速さは「0～Hi」まで
変えることができます。
（初期設定は15になっています。）
※船べり停止以降は、チョイ巻を
無効にしています。

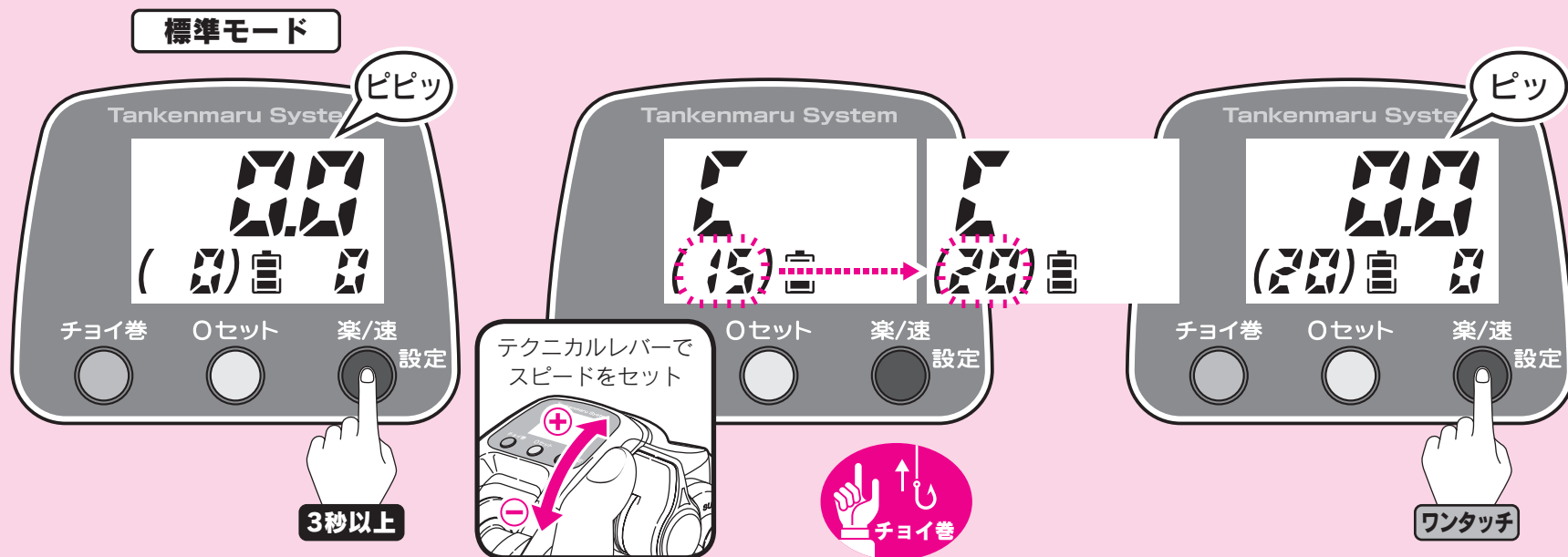
■0セットボタン

3秒以上

0セットします。
仕掛けを水面に合わせて
0セットしてください。
※水深表示が10.1m以上で高切れ
補正します。
結びなおした仕掛けは水面に合
わせ高切れ補正してください。

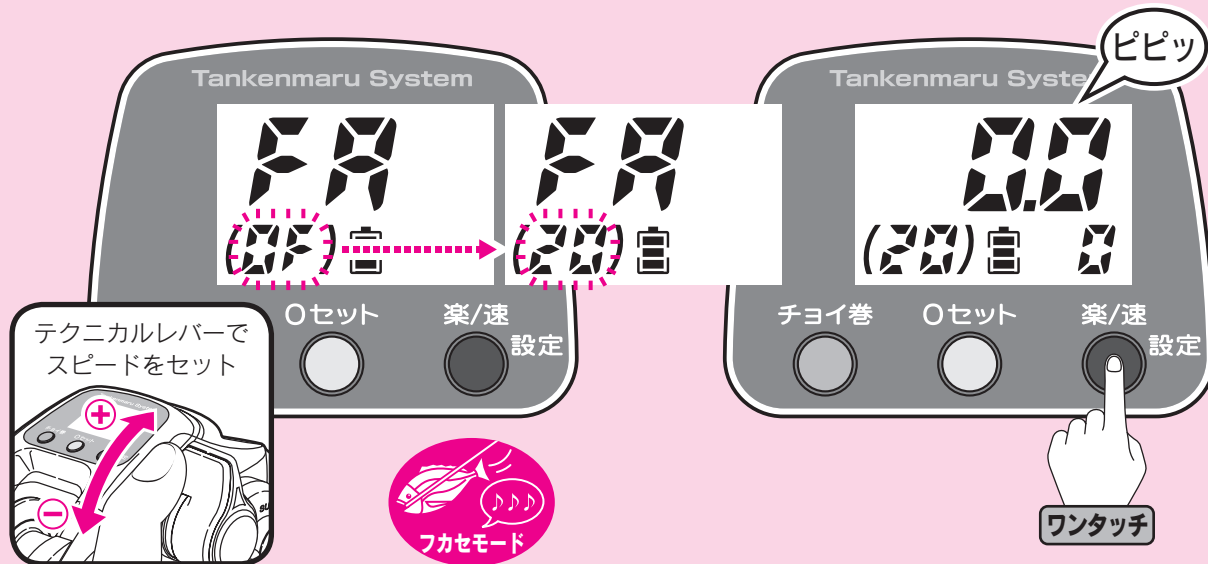
●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

設定ボタンの操作（チョイ巻のスピードとアタリ検知アラームのスピード）

1 チョイ巻のスピード設定

1 **設定ボタンを３秒押すと**
チョイ巻のスピードの設定モードに
入ります。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※フカセモードが ON の場合
“(　)”は表示されません。

2 **レバーを操作して、**
スピードを設定してください。
※“(　)”が点滅して、
左上に「C」が表示されます。
※初期設定は 15 です。（図は 15 から
20 に変更した場合です。）

3 **設定ボタンを押して、完了です。**
「ピッ」のアラームが鳴ります。
※フカセモードが OFF の場合は、
標準モードに戻ります。
※フカセモードが ON の場合は、
引き続き **4** へ
アタリ検知アラームのスピード設定に
移ります。

2 アタリ検知アラームのスピード設定

4 **レバーを操作して、**
スピードを設定してください。
“**(　)**” が点滅して、
左上に「FA」が表示されます。
※初期設定は、OFF です。(図は OFF から 20 に変更した場合です。)

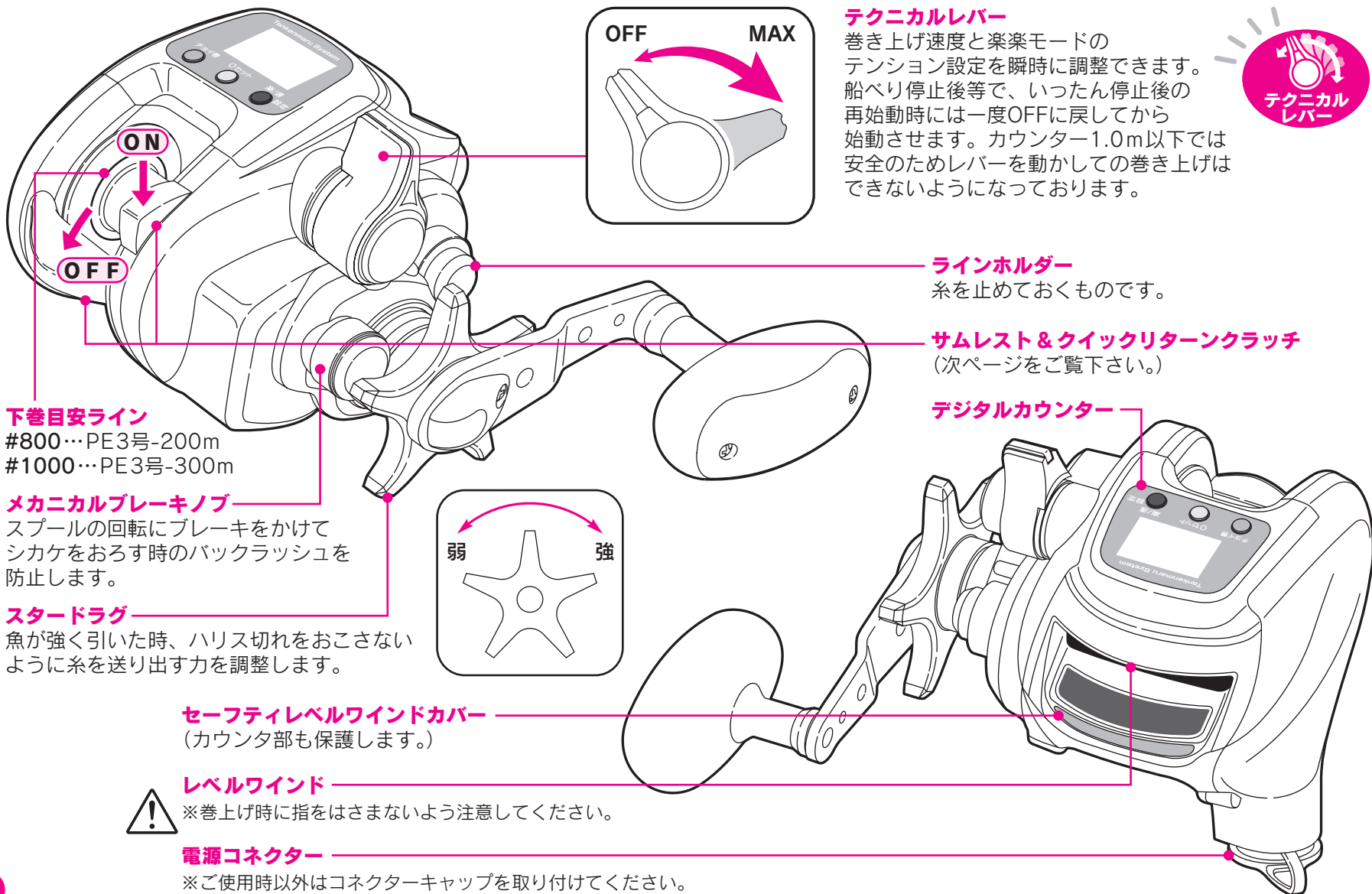
5 **設定ボタンを押して完了です。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
標準モードに戻ります。

各部の名称

テクニカルレバー
巻き上げ速度と楽楽モードの
テンション設定を瞬時に調整できます。
船べり停止後等で、いったん停止後の
再始動時には一度OFFに戻してから
始動させます。カウンター1.0m以下では
安全のためレバーを動かしての巻き上げは
できないようになっております。

ラインホルダー
糸を止めておくものです。

サムレスト＆クイックリターンクラッチ
（次ページをご覧下さい。）

デジタルカウンター

下巻目安ライン
#800…PE3号-200m
#1000…PE3号-300m

メカニカルブレーキノブ
スプールの回転にブレーキをかけて
シカケをおろす時のバックラッシュを
防止します。

スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさない
ように糸を送り出す力を調整します。

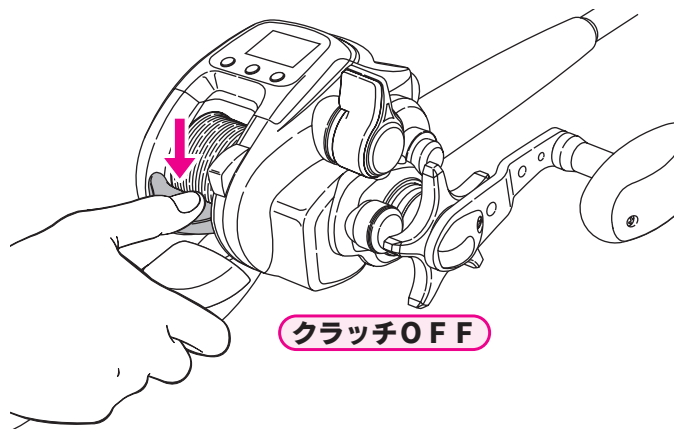
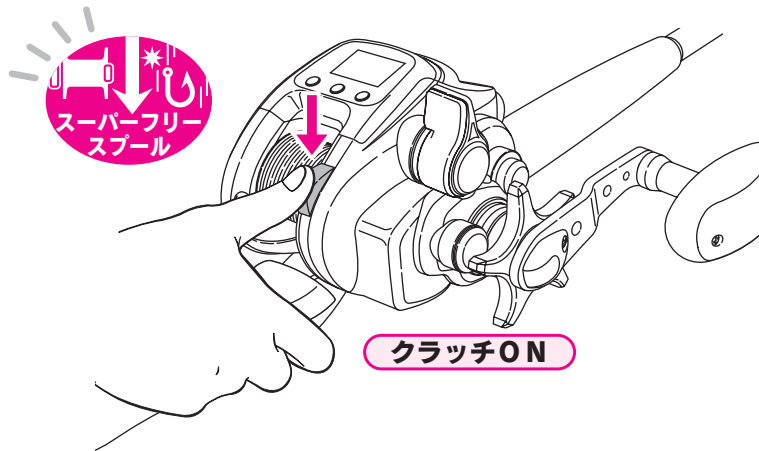
セーフティレベルワインドカバー
（カウンタ部も保護します。）

レベルワインド
※巻上げ時に指をはさまないよう注意してください。

電源コネクター
※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

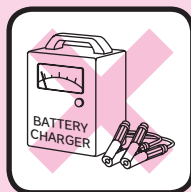
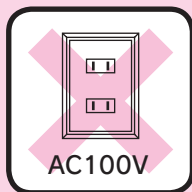
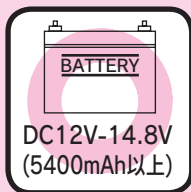
サムレスト＆クイックリターンクラッチ

クラッチOFFの時レバーを押すと、クラッチがONになります。
ロッドを持っている手で素早く操作できます。
ハンドル正転または手で戻してもONできます。

ＯＮ　：シカケの巻き上げ
ＯＦＦ：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

電源とケーブルについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流（DC）12Vです。公称電圧が12Vから14.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。

- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから14.8Vであることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。）また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。
- 他社メーカーのバッテリーには、ワニ口が正確に取り付けできない場合がございます。また、他社メーカーのバッテリーを使用されますと、バッテリーが破損する場合があります。

本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。
ご使用になる際は弊社、**電力丸**をご使用になるようお勧めいたします。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。
探見丸接続時は専用ケーブルをご使用ください。
ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、２～３年で交換することをお勧めします。

ご注意：
純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

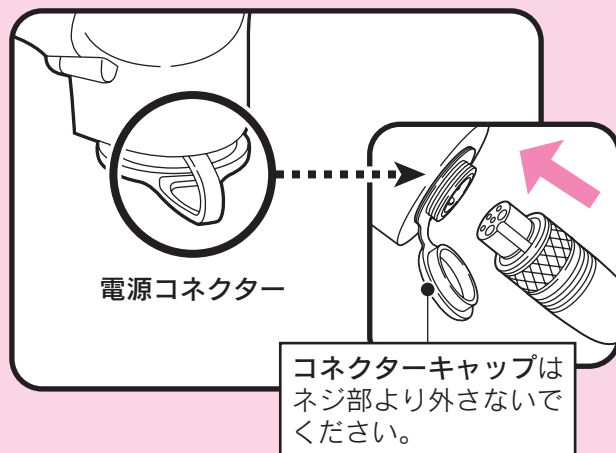
本製品に付属しているケーブルはType-Bです。
※ケーブルタイプの表示のない電動リールおよびケーブルはType-Bになります。

2 バッテリーとの接続方法

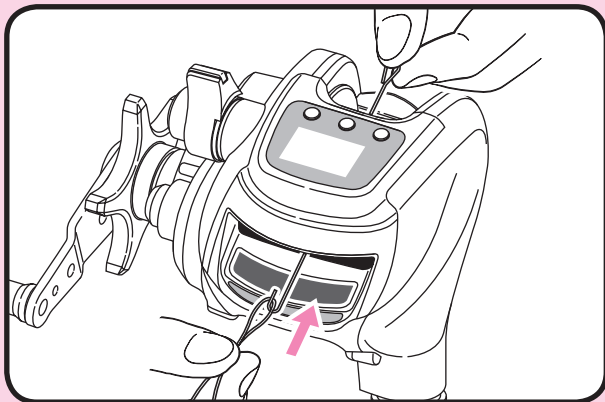
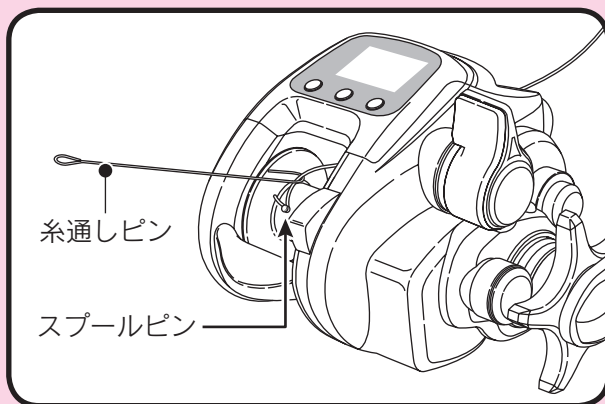
1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。

赤クリップを（＋）側に、黒クリップを（－）側につないでください。

2 リールとケーブルを接続してください。

ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。

糸をセットします。

1 糸をレベルワインドに通します。

糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。

2 スプールピンに糸を結んでください。

学習方法の選択

まず次ページの操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

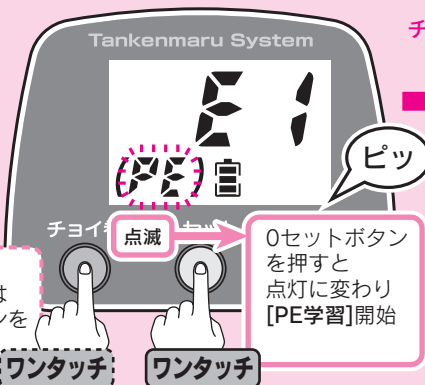
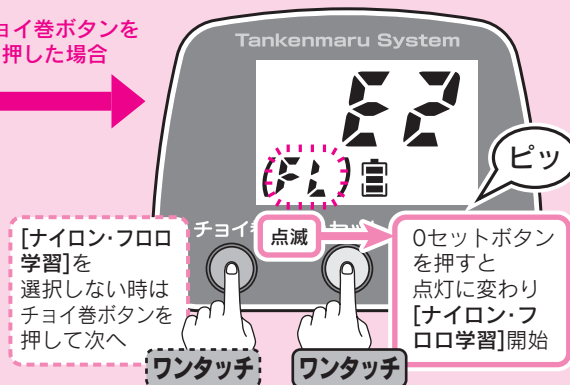
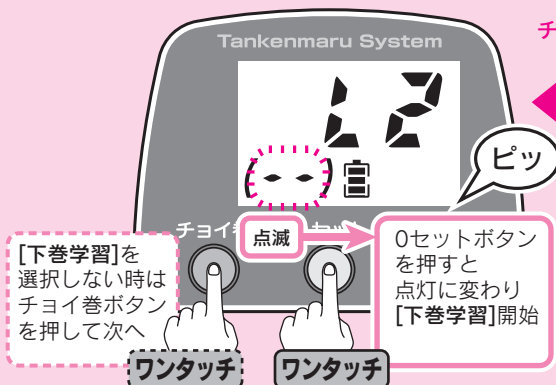
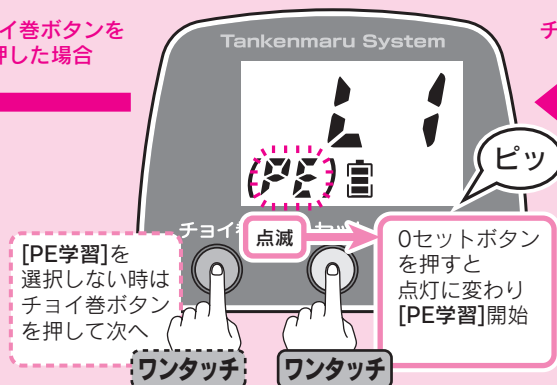
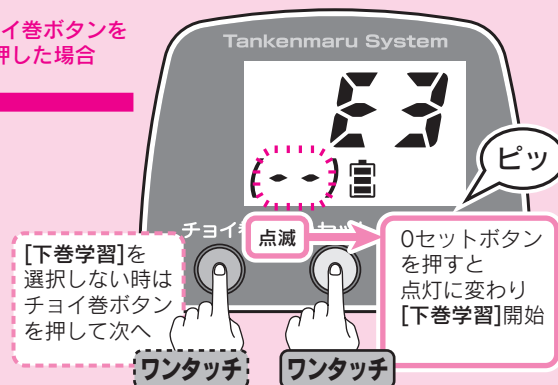
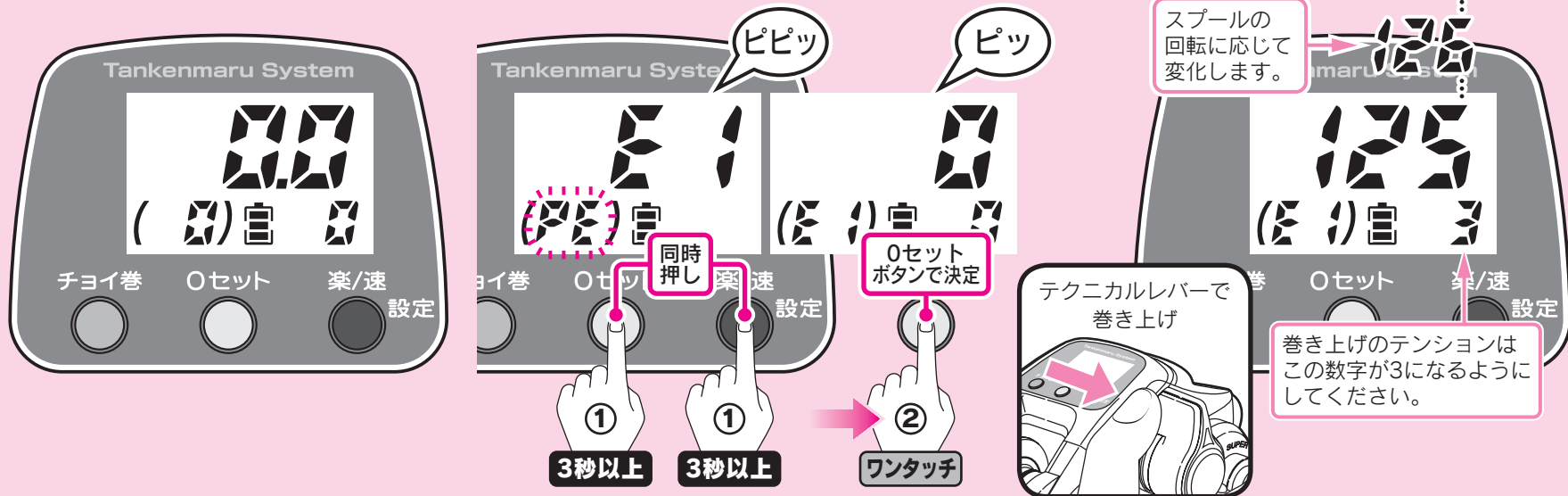
それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
※カウント値が 6 m以下で操作してください。
　6.1m 以上の時はいったん 0 セットしてください。

ご注意：
不足した電圧 で学習されると途中で液晶が消える場合があります。
この場合、学習は始めからやり直してください。

※標準モード（初期画面）から設定を変えられた場合、電源を OFF されましても、設定は記憶されます。

学習モード一覧

標準モード
実際に釣る場合使用します。
電源ON時はこの状態です。
（※初期画面）
ピピッ
0セット+設定ボタン両方同時
3秒以上押しで学習モードへ
チョイ巻
0セット
設定
3秒以上
3秒以上
チョイ巻ボタンを押した場合
標準モードに戻ります。
① 学習モード E1
NEW SLSⅢ PE学習
Tankenmaru System
ピッ
点滅
[PE学習]を
選択しない時は
チョイ巻ボタンを
押して次へ
0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[PE学習]開始
ワンタッチ
ワンタッチ
チョイ巻ボタンを
押した場合
② 学習モード E2
NEW SLSⅢ ナイロン･フロロ学習
Tankenmaru System
ピッ
点滅
[ナイロン･フロロ
学習]を
選択しない時は
チョイ巻ボタンを
押して次へ
0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[ナイロン･フ
ロロ学習]開始
ワンタッチ
ワンタッチ
チョイ巻ボタンを
押した場合
③ 学習モード E3
NEW SLSⅢ 下巻学習
Tankenmaru System
ピッ
点滅
[下巻学習]を
選択しない時は
チョイ巻ボタン
を押して次へ
0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[下巻学習]開始
ワンタッチ
ワンタッチ
チョイ巻ボタンを
押した場合
④ 学習モード L1
従来のSLSⅡ PE学習
Tankenmaru System
ピッ
点滅
[PE学習]を
選択しない時は
チョイ巻ボタン
を押して次へ
0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[PE学習]開始
ワンタッチ
ワンタッチ
チョイ巻ボタンを
押した場合
⑤ 学習モード L2
従来のSLSⅡ 下巻学習
Tankenmaru System
ピッ
点滅
[下巻学習]を
選択しない時は
チョイ巻ボタン
を押して次へ
0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[下巻学習]開始
ワンタッチ
ワンタッチ

1 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習
PEライン学習（E1）

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（37～38ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。**
「PE」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E1」を決定します。
（PE）が（E1）の点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **レバーで糸の長さをセットし**
0セットボタンを3秒以上押してください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。（図は300mから200mに変更した場合です。

※各入力途中でチョイ巻ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

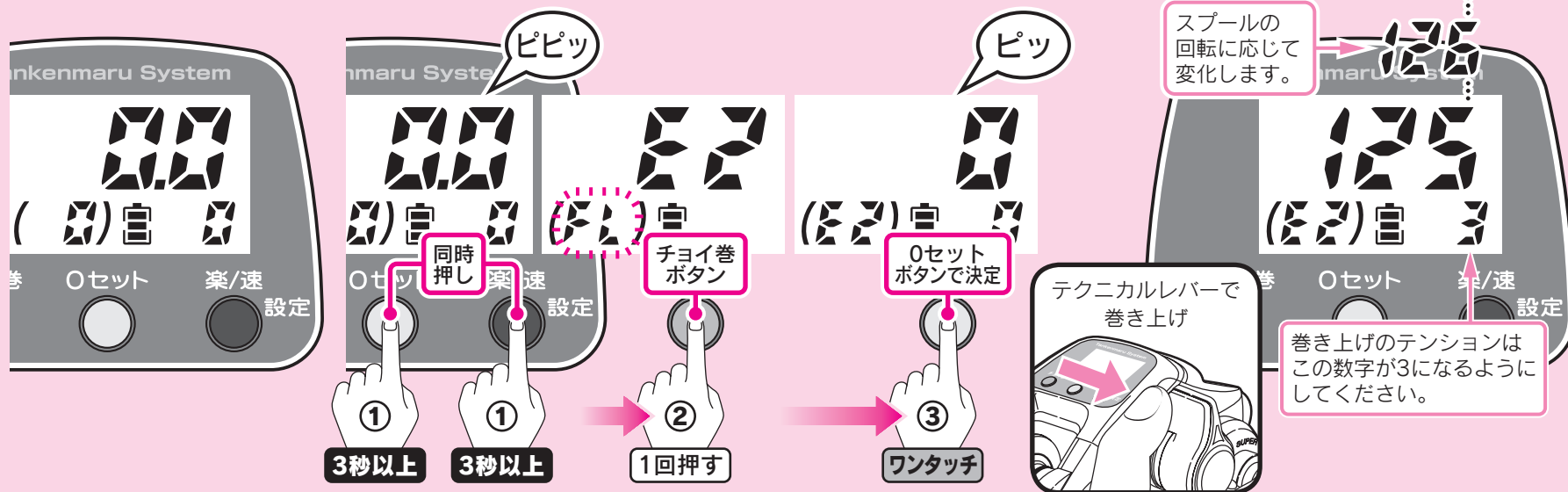
6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

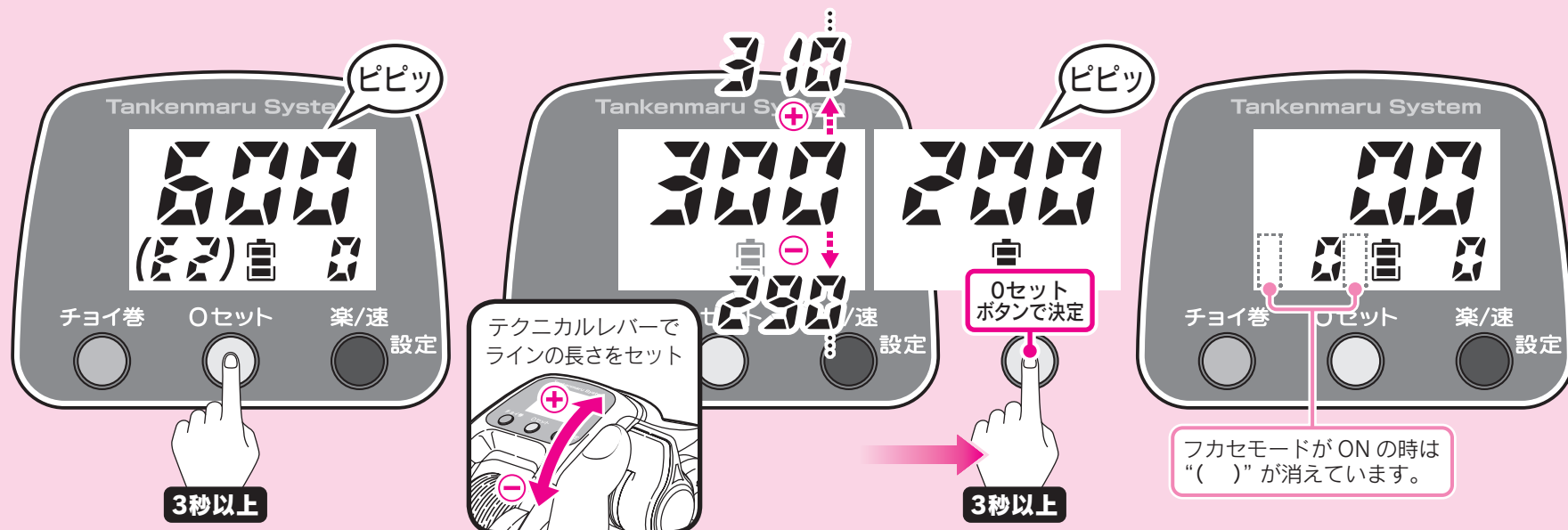
2 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習

ナイロン・フロロ学習（E2）

1 カウント値が6ｍ以下で操作します。
6.1ｍ以上の時は0セット（37～38ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。**
次に、チョイ巻ボタンを1回押してください。
「FL」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E2」を決定します。
（FL）が（E2）の点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

ご注意!! ナイロン・フロロを巻かれる際は、巻上げテンションの数字が「5」以上にならないように注意してください。スプールが変形する恐れがあります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **レバーで糸の長さをセットし 0セットボタンを3秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は 300m です。（図は 300m から 200m に変更した場合です。

※各入力途中でチョイ巻ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

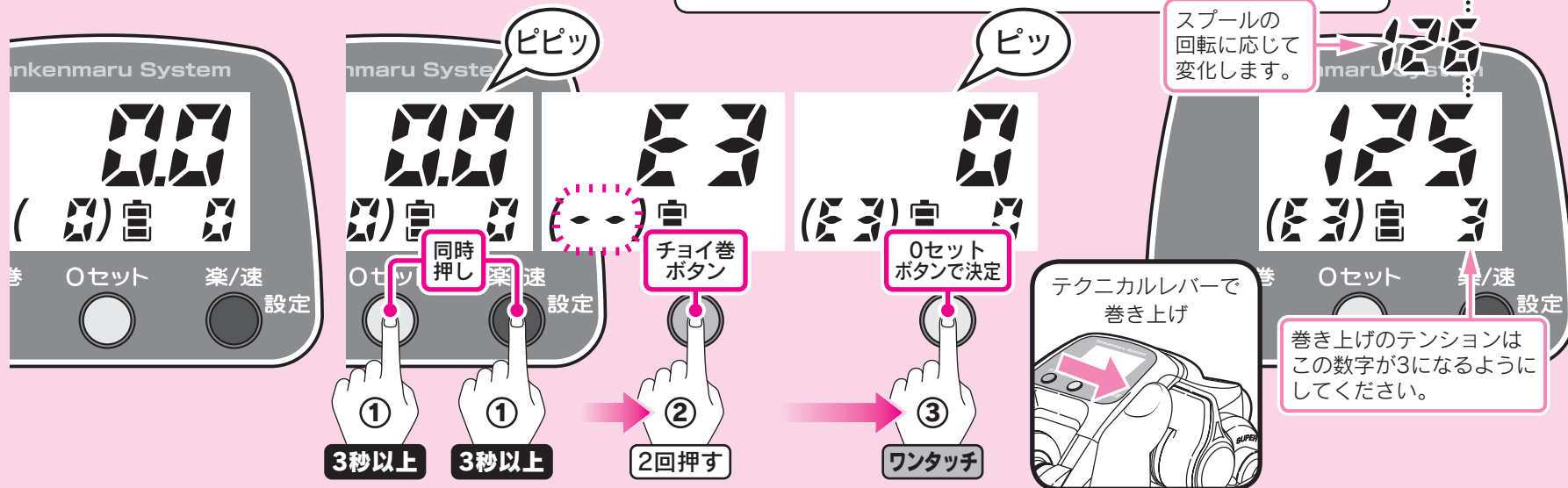
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後 1 投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、46 ～ 47 ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

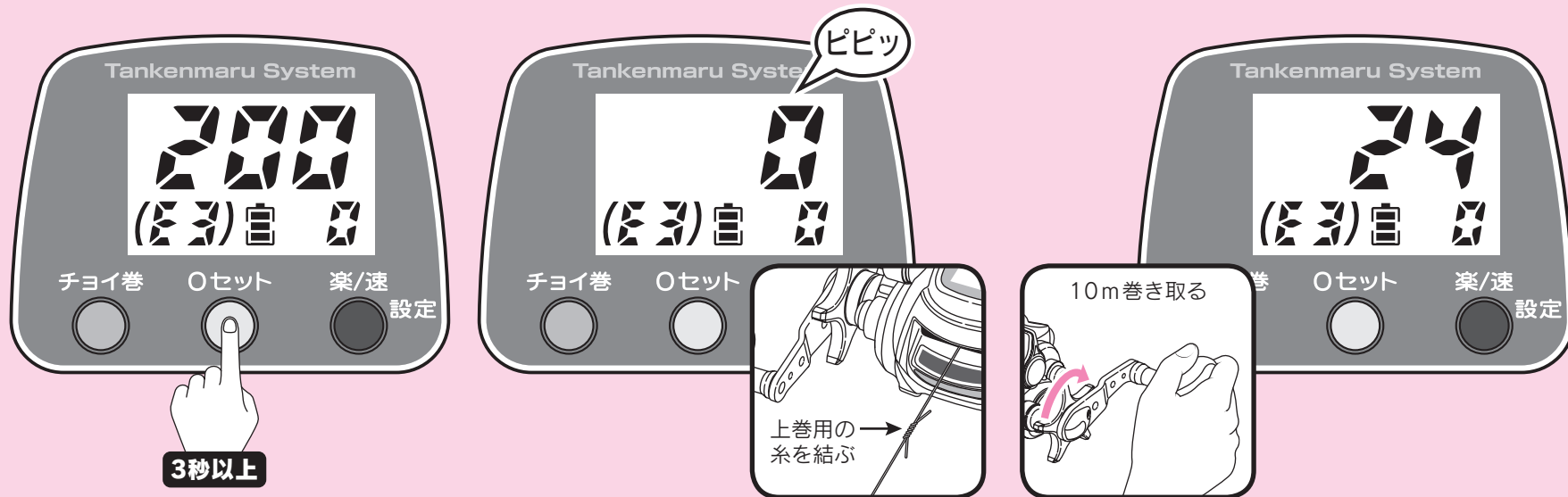
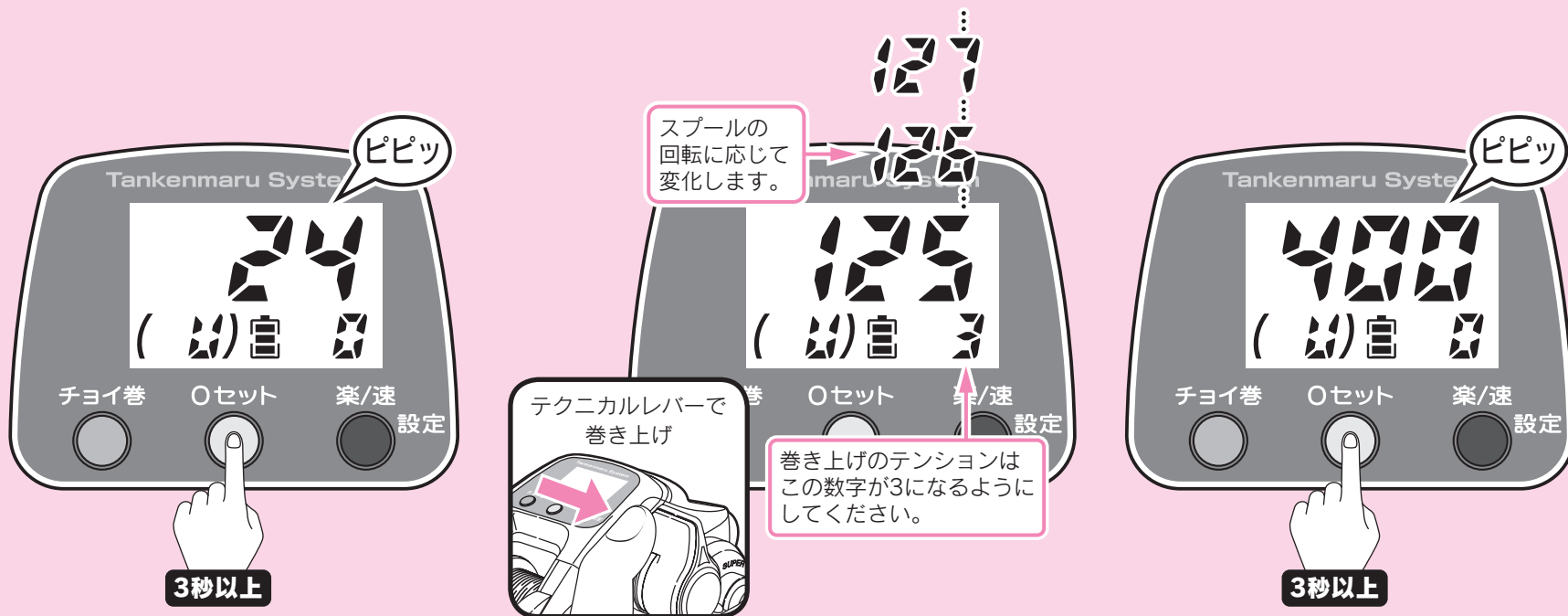
学習モード【NEW SLS Ⅲ ナイロン・フロロ学習】（E2）をされた場合 “(　)” が表示されません。フカセモードがON になります。
注：フカセモードのON/OFF切替えはできません。

3 簡単・便利なNEW SLS Ⅲ 糸巻学習
下巻き学習（E3）

※800番…PE3号200m、1000番…PE3号300mを巻かれる場合：
スプールの下巻きラインを使用してください。
※800番…PE3号100m/3号200m/4号200m、
1000番…PE3号200m/3号300m/4号200mを巻かれる場合：
付属ゲージを使用してください。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（37～38ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。**
次に、チョイ巻ボタンを2 回押してください。
「- -」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E3」を決定します。
（- -）が（E3）の点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **下巻き用の糸を巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 **上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。**
スプールの回転に応じて表示が変化します。

次ページにつづく

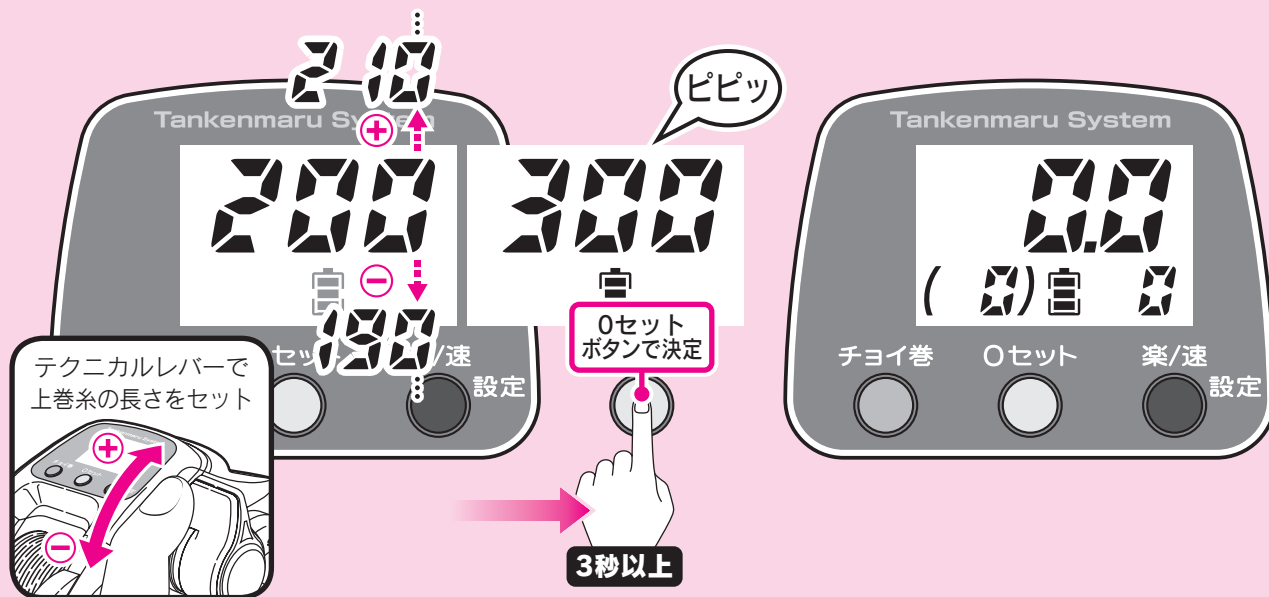
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

7 **0セットボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 **糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

10 **レバーで上巻き糸の長さをセットし**
0セットボタンを3秒以上押してください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は200mです。（図は200mから300mに変更した場合です。

※各入力途中でチョイ巻ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

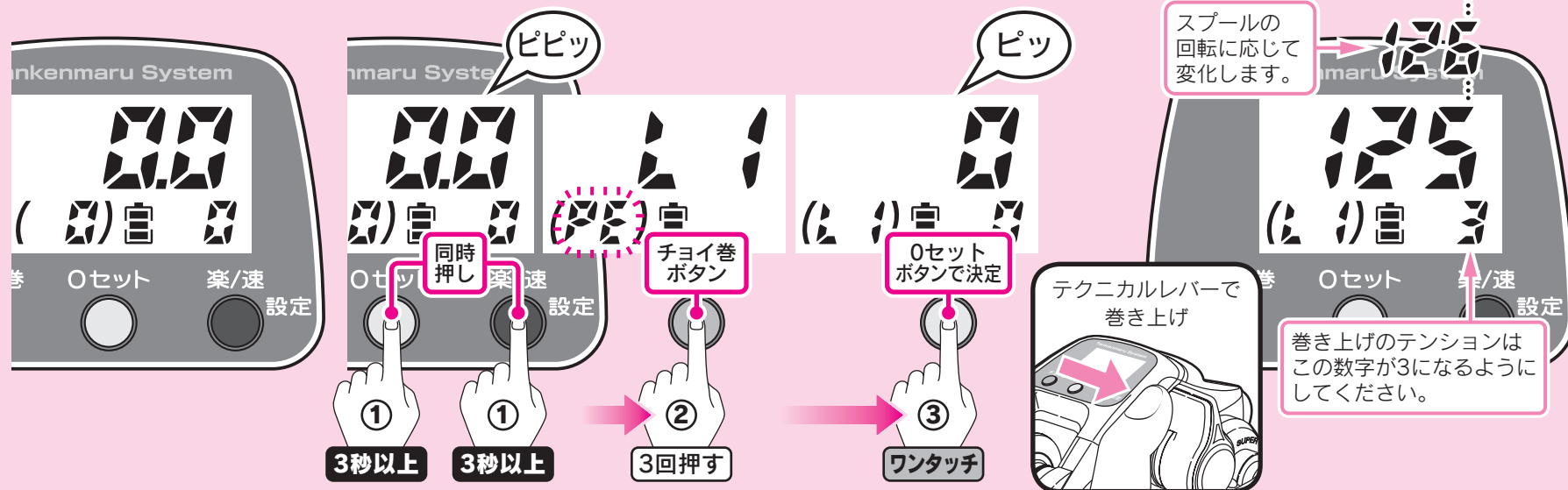
11 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

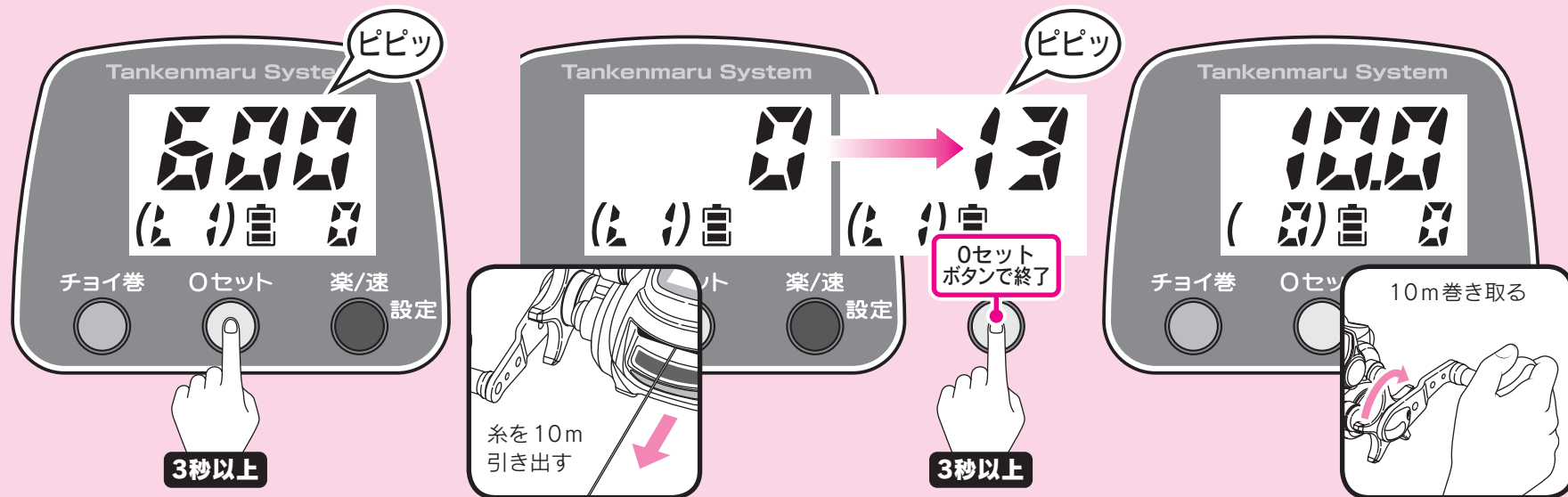
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

4 従来のSLS II 糸巻学習

PEライン学習（L1）

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（37～38ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。**
次に、チョイ巻ボタンを3 回押してください。
「PE」が点滅します。
0セットボタンを押し、「L1」を決定します。
（PE）が（L1）の点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18 ～ 19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

> **ご注意：**糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。）**
学習を終了するため、0セットボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

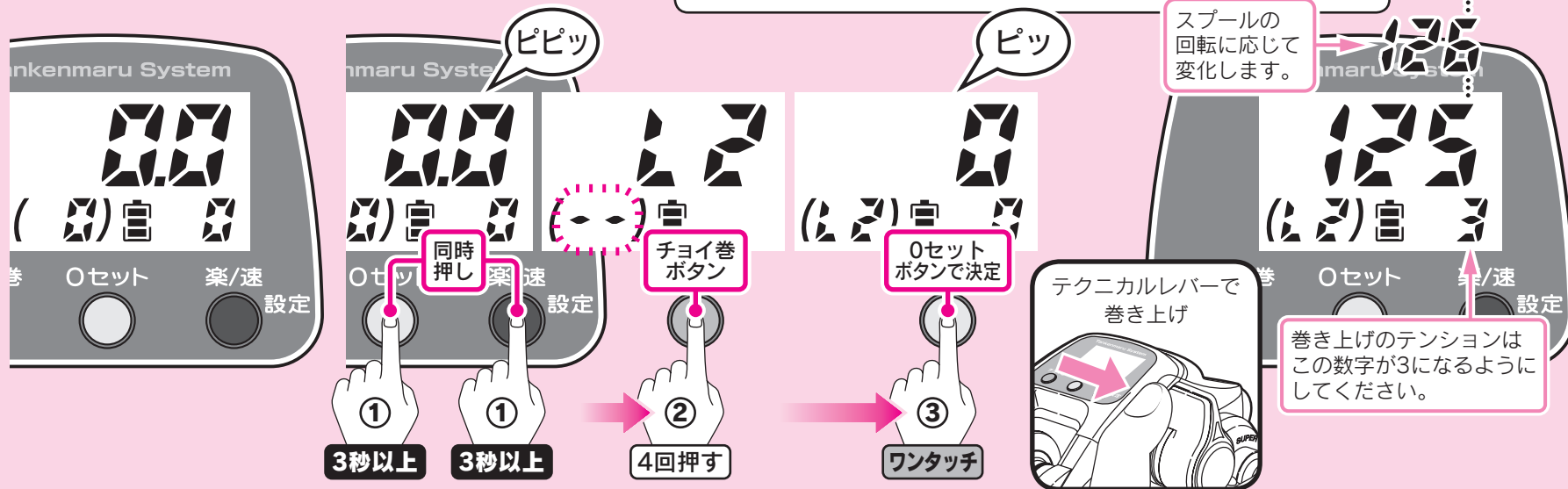
6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

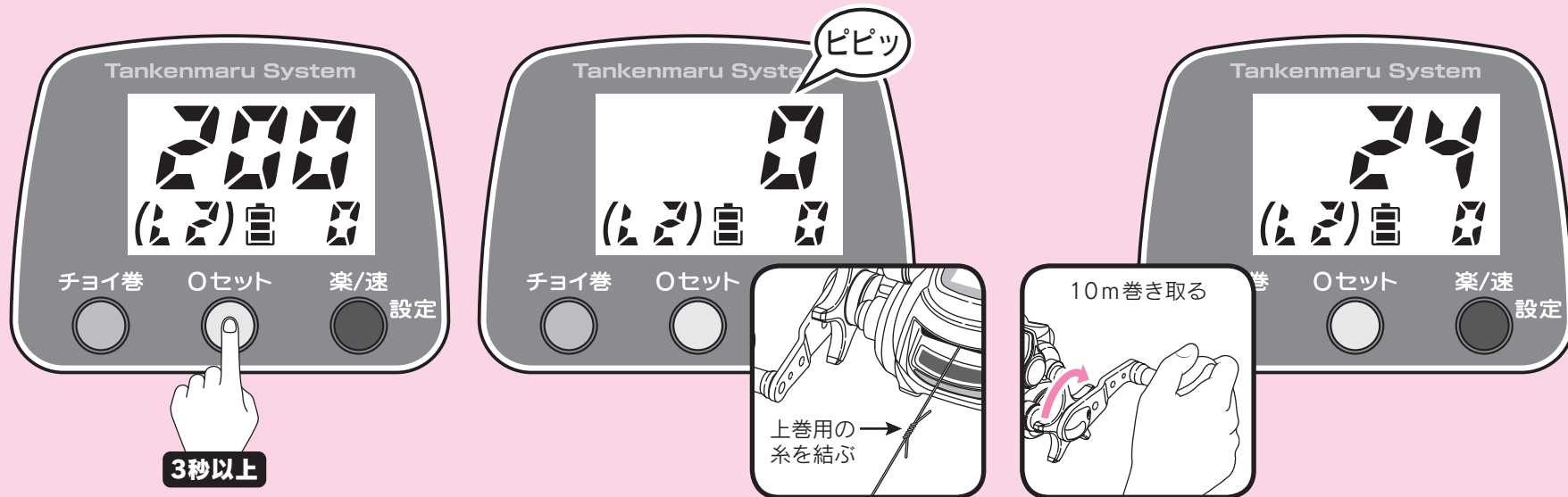
7 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

5 従来のSLS II 糸巻学習 下巻き学習（L2）

※800番…PE3号200m、1000番…PE3号300mを巻かれる場合：
スプールの下巻きラインを使用してください。
※800番…PE3号100m/3号200m/4号200m、
1000番…PE3号200m/3号300m/4号200mを巻かれる場合：
付属ゲージを使用してください。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（37〜38ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。**
次に、チョイ巻ボタンを4 回押してください。
「- -」が点滅します。
0セットボタンを押し、「L2」を決定します。
（- -）が（L2）の点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18 〜 19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意： カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **下巻き用の糸を巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 **上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。**
スプールの回転に応じて数値が変化します。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

7 **0セットボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 **糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

10 **糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)**
学習を終了するため、0セットボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

11 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

12 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

糸巻学習後の手順（早く、有効に使いこなすために…）

かんたん手順

これさえ知っていればとにかく使えます。

べんり手順

簡単でとっても便利です。

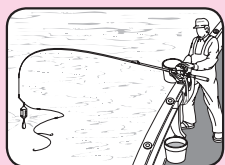
もっとべんり手順

知れば知るほど釣りの世界が広がります。

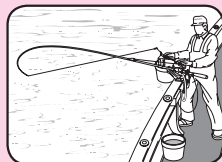
フカセモード

フカセモード時は「仕掛巻込防止機能」、「アタリ検知アラーム」の２つの機能が有効になります。

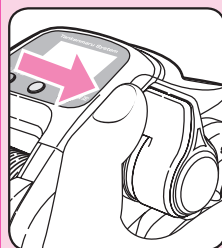
詳しくは P44～45へ!!

0セット

ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。狙った水深に正確にシカケを投入できます。

詳しくは P37～38へ!!

船べり自動停止

竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しに差がつきます。

詳しくは P40～41へ!!

テクニカルレバー

エサの付けかえをする時、あるいはアタリがあればテクニカルレバーでらくらく巻き上げ。

詳しくは P14へ!!

チョイ巻

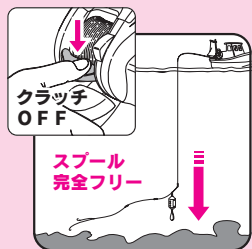
ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。

詳しくは P11～12へ!!

棚タイマー

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

詳しくは P11へ!!

スーパーフリースプール

クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

ご注意：
クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

**詳しくは
P15・40へ!!**

糸落スピード表示

糸落のスピードの目安を表示中は“(　)”が点滅します。
糸落スピードを安定させることにより、釣果UPにつながります。

**詳しくは
P11へ!!**

電動巻上負荷表示

モーター巻上げ時、ラインテンションの目安を表示します。
ドラグ調整や、巻き上げスピードの調整などでハリス切れを防ぐことができ、また、魚の匹数や大きさの目安にもなります。

**詳しくは
P11へ!!**

糸巻学習補正

ずれを補正

カウンター

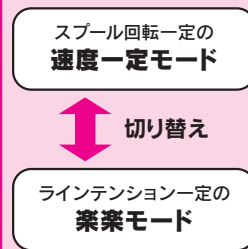
実際のラインマーカーとカウンターのm数を補正することで、より正確な棚取りを行えます。

**詳しくは
P46～47へ!!**

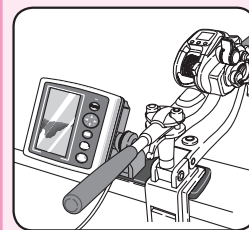
楽楽・速度一定モード切替え

スプール回転一定の
速度一定モード

切り替え

ラインテンション一定の
楽楽モード

一定のテンションを保って引っ張り合いやシカケのゆるみを防ぐ「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

**詳しくは
P11・42～43へ!!**

探見丸システム

船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。
「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスターが探見丸でさらに便利に！

**詳しくは
P48～49へ!!**

シカケを速く落すテクニック。

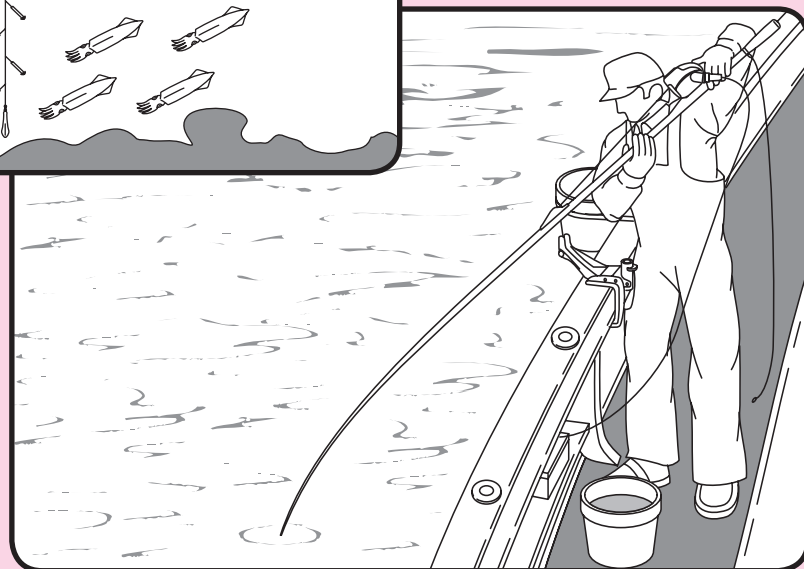
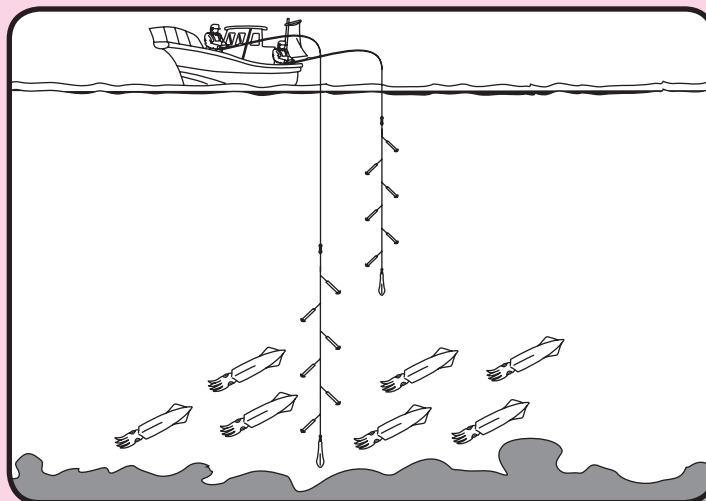
●一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

●しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

●竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。（右図）

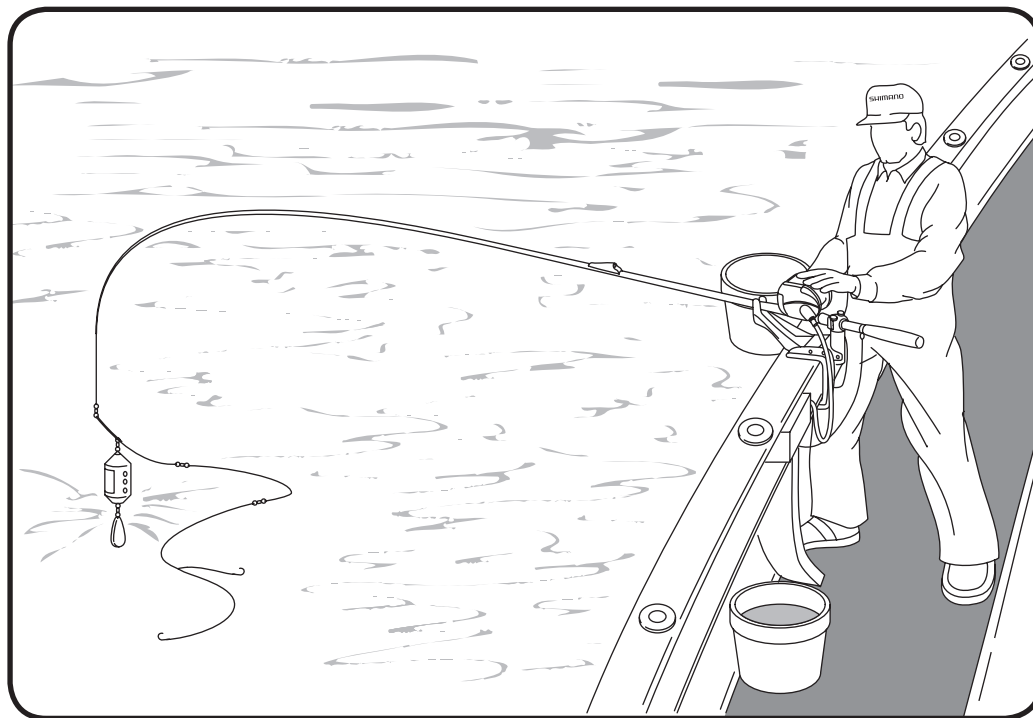
※スーパーフリースプールを採用しておりますので、モーターを強制的に回しての「糸送り」機能は搭載しておりません。

※シカケ落下中に、レベルワインドの位置をスプールのセンターに位置することで、さらにスムーズに落下させることができます。
シカケ落下中に、チョイ巻きボタンを押すことで、レベルワインドを動かすことができます。

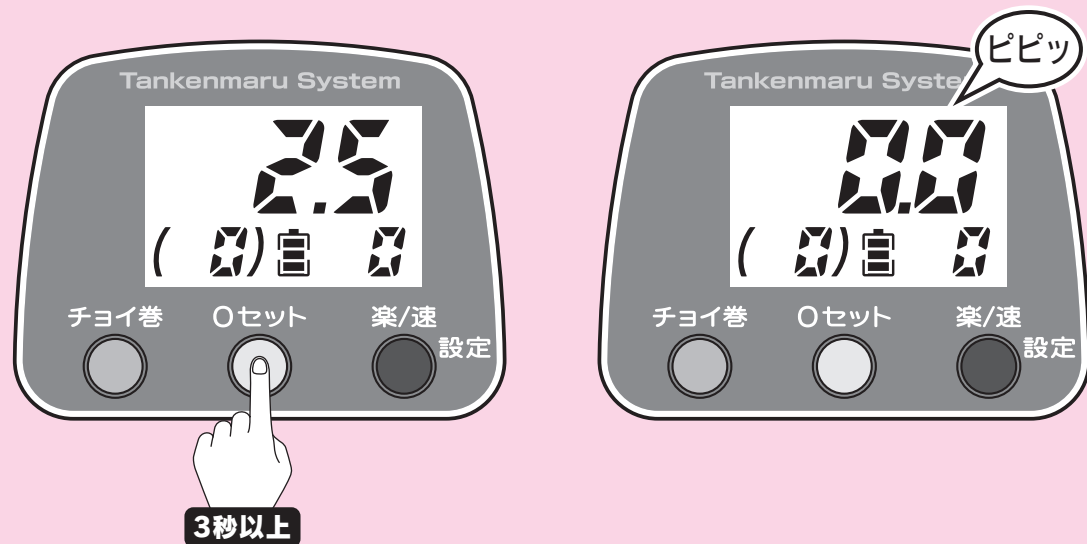
※シカケ落下中に、モーターが ON になっている状態でクラッチを ON にしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターが OFF になっている事をご確認の上、クラッチを ON にしてください。

０（ゼロ）セットの設定 （釣りを始める前に必ず行なってください。）

正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「０セット」を設定します。
「０セット」とは、シカケが水面にある時を０ｍとして設定することです。
「０セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での０セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。
※水深表示が10.1ｍ 以上で０セットをすると、高切れ補正となります。

シカケが水面にある時を 0m として設定します。

次ページにつづく

0セットをしてみましょう。

1 シカケを水面に合わせ、0セットボタンを3秒以上押して下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
これで0セットは完了です。

ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。

1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0 セットボタンを 3 秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。
これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

ご注意！

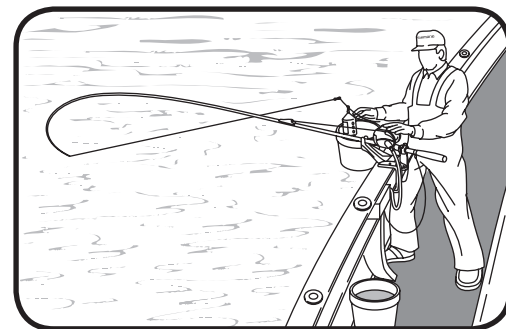
高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。
道糸の巻き込みには十分ご注意ください。

シールドタイプ S A-RBで さらなるスプールフリーを実現！

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプS A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。
それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。
また、レベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。
A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

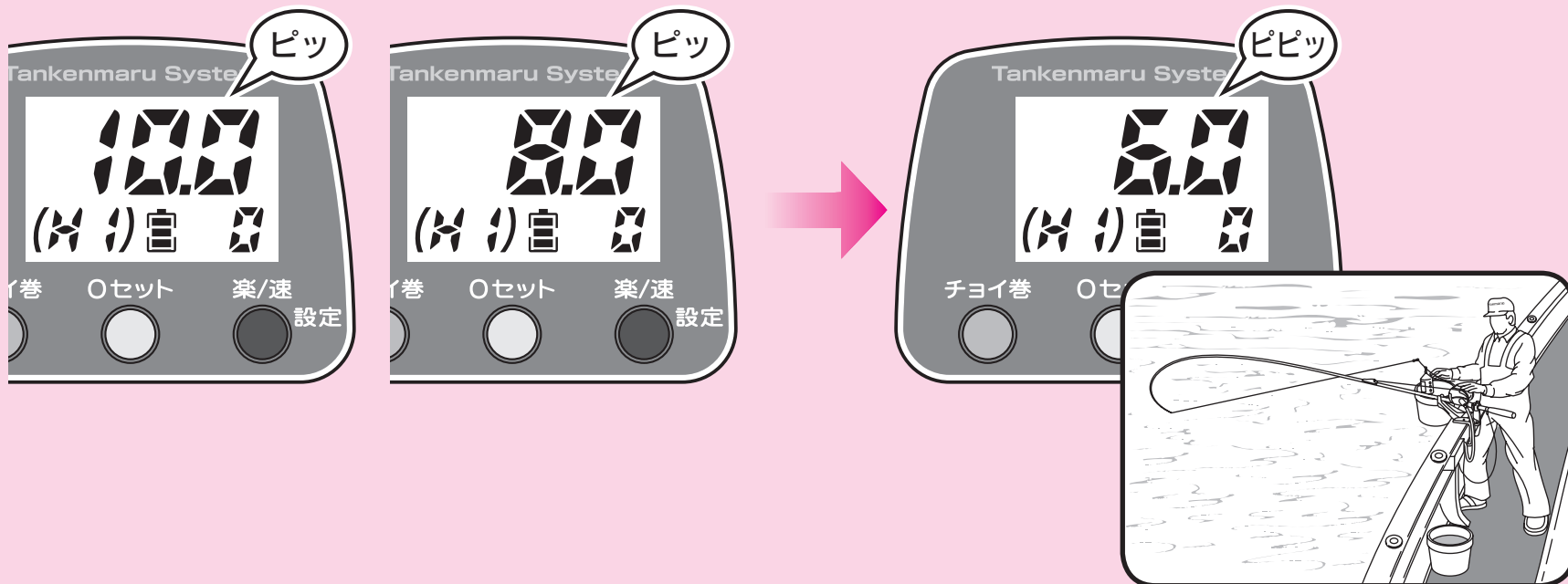
シールドタイプ S A-RB 6個内蔵

電動巻き上げ停止後、竿を立てれば シカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。
2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。
（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。）
※フカセモード時は船べり停止位置の自動設定が無効になり、巻き込み防止のプログラムが作動し、かなり手前で止まる場合があります。

●ワンポイントアドバイス
短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズレてしまいます。

アラーム（船べり）

船べり自動停止位置の４ｍ手前からアラームでお知らせします。

1 セットされている船べり自動停止位置の４ｍ手前から、
２ｍごとにアラームでお知らせします。
図はテクニカルレバーのHIで巻き上げた場合の表示です。

2 船べり自動停止位置（この場合は 6.0m）で「ピピッ」の
アラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、
すばやく上図のようにとりこむことができます。

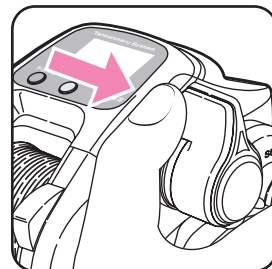
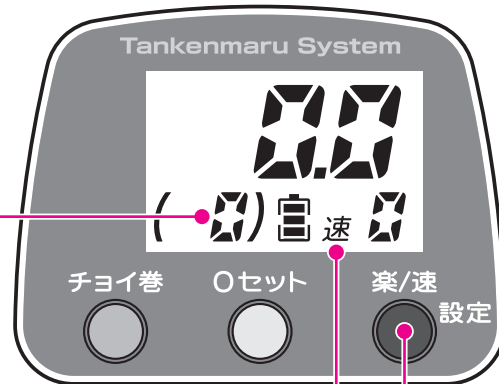
1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

●電源を入れた際には楽楽モードで起動します。
楽/速ボタンを押すことにより、
速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。（右図）
巻き上げ中の操作も可能です。

現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。
楽楽モード：緑のバックライト
速度一定モード：赤のバックライト（「**速**」点灯）

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物が大きくなろうが小さくなろうが、
つまりリールにかかる負荷が大きくても小さくても、
モーターが調整して設定された速度※を一定に保って
巻き上げます。（※速度→電動リールのスプール回転速度）

ご注意：設定値 1 ～ 4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、つねに一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったりしたときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。

これなら楽だし、手巻き感覚で安心です!

※工場出荷の初期設定は「楽楽モード」となっております。

さらにこんなメリットも…

●活きエサを除くすべての釣りをカバー。
テンションの軽いシカケ回収の際には、ほぼ最高速で巻き上げてくるため、電動の速度調整がいらず非常に簡単便利。

●テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。

●電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

楽楽モードの設定方法

テクニカルレバー

●**テクニカルレバーで設定します。**（前ページ図参照）
巻き上げ設定は全部で 31 段階設定できるようになっています。
テクニカルレバーの設定値はカウンターに表示されます。

●設定値 1 ～ 4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。
オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

フカセモード

シカケの巻き込みを防止し、アタリをお知らせします。

フカセモード時は以下の２つの機能が有効になります。

1 仕掛巻込防止機能

フカセ釣りの様な軽負荷の釣りにおいては、シカケだけの回収、魚が掛かっての回収で負荷が大きく変わります。

電動リールの糸巻き学習は一定の負荷で回転数を記憶させているため、負荷の変動が大きいと誤差も大きくなり、ナイロン、フロロと伸びの大きい道糸を使用されますと、さらに誤差が大きくなります。時には竿の穂先にシカケを巻き込んで、穂先の破損をまねく場合もあります。

フカセモードがONの場合、穂先の巻き込みを防止するプログラムが働き、安全、快適に釣りを楽しむことができます。本プログラムは、シカケを回収している際のリールの負荷が大きいと感じた時は船べり停止を6ｍに設定し、負荷が軽いと感じた時は出した糸の量の10％（100ｍ出せば10ｍ、6ｍ以内になるようなら6ｍ）で船べり停止を設定します。

※どちらもカウンター表示での数字となるため、実際のメートル数とは異なってきます。20速以上でこの機能はONとなりますので軽負荷で20速未満で巻きますと、穂先に巻き込む場合もあります。

2 アタリ検知アラーム

クラッチ OFF で糸を出している状況で、設定した速度よりも早いスピードで糸が引き出された時にアタリアラーム「ピッピッピッ…（3 秒間）」が鳴り、アタリを知らせてくれます。また、その設定値はお客様で変える事も可能です。初期設定は“OFF”となっています。

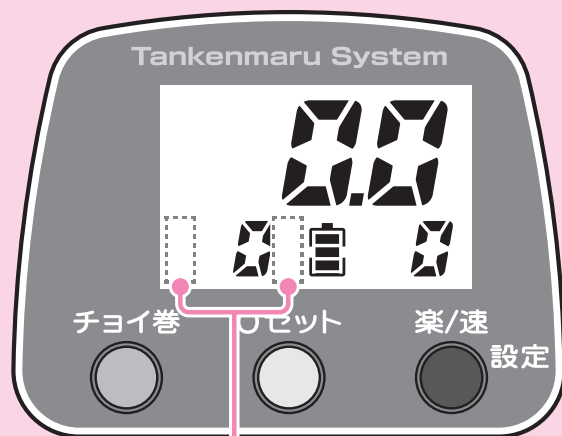
※モーターがOFFの状態でカウンター表示20ｍ以上の時に有効です。

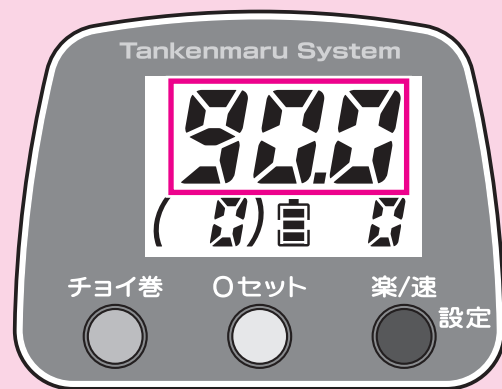
※設定速度の変更は、フカセモードONの時のみで、P.13に記載しています。

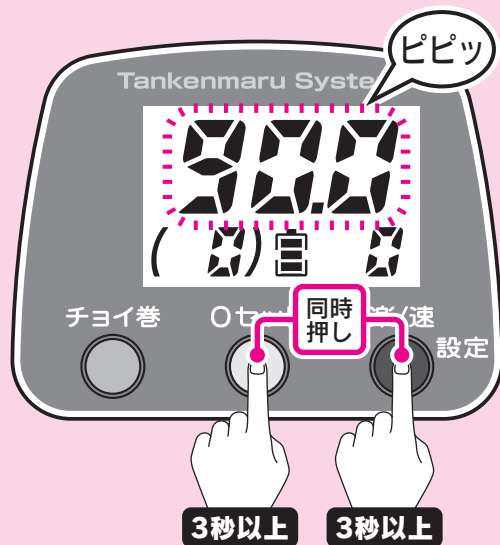
フカセモードのON/OFFについて…

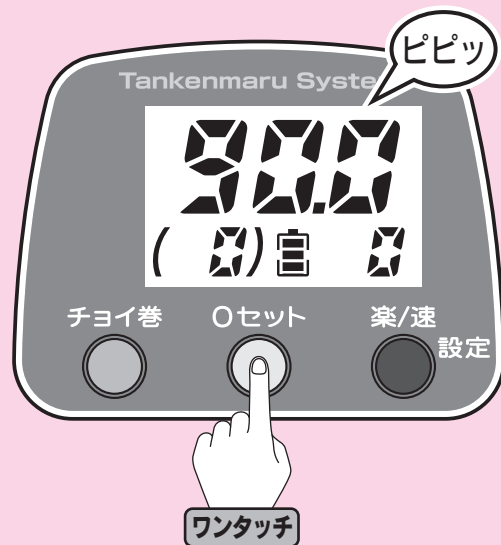
NEW SLS Ⅲ（E2）で糸巻学習をされた場合、
自動でフカセモードがONで立ち上がります。

その他で糸巻学習をされた時は、
フカセモードがOFFで立ち上がります。

※フカセモードのON/OFFの切替えは、できません。

糸巻学習補正

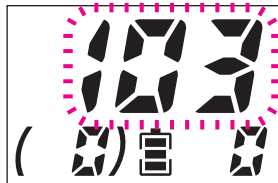
カウンターの水深と実際のラインマーカーのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。

1 カウント値が10m以上の時に有効です。
現在の水深表示を切りのいい数値（少数以下を0）に合わせてください。
少数以下を0にしますとラインマーカーで合わせることができます。ラインの色が変わる前後（10m単位）がより分かり易くなります。

※100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

2 **0セットボタン、設定ボタンを両方同時に3秒以上押すと糸巻学習補正に入ります。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、水深表示が点滅します。この時、糸を手で出し入れしても表示は変わりません。
ここで、実際の糸の位置（例図の場合ですと90m）**を水面に合わせてください。**

※補正をキャンセルしたい場合はチョイ巻ボタンを押してください。モーターの作動（補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等）でもキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正値が使用されます。

3 **0セットボタンを押して補正を確定してください。**「ピピッ」のアラームが鳴ります。
標準モードに戻り、補正は完了です。
現在の水深表示に補正後の水深が表示されます。

電源をOFFされましても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

1
あ!
カウンターと道糸の
マーカーがずれている!!
103
100m
海
2
その時は
糸巻学習補正
があるよ!
チョイ巻
0セット
楽/速
設定
どうするの?
0セットボタンと設定ボタンを
3秒以上
同時に押してください。
3
水深表示が点滅し
糸を出し入れしても
動かないよ!
103
4
そう、その時に
カウンター表示と道糸の
マーカーが同じになる様に
道糸を出し入れし、
103
チョイ巻
0セット
103m
0セットボタンを
ワンタッチ
押せば OK!
次からバッチリ!

探見丸システム接続時の機能一覧

この電動リールを探見丸に接続された場合、探見丸で下記の機能が使用可能になります。

探見丸単体の機能④⑥⑦⑯⑰を含む、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧下さい。

対応電動リールの機種、使用される探見丸の機種により使用可能になる機能は異なります。画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

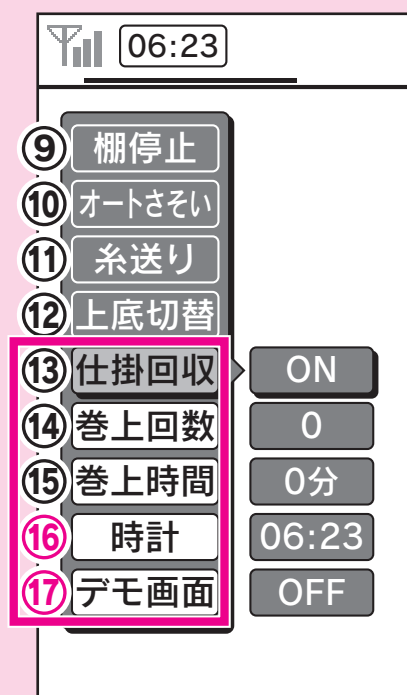
探見丸メニュー画面 1

06:23

項目	設定
①楽速切替	楽楽
②さそい	OFF
③さそい幅	連続
④底拡大	OFF
⑤位置補正	OFF
⑥ボトムライン	OFF
⑦背景色	白色
⑧シカケ軌跡	OFF

探見丸メニュー画面 2

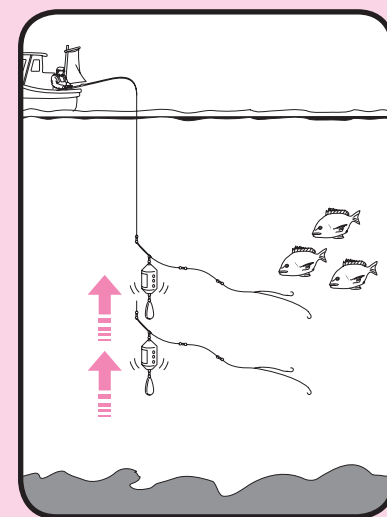
06:23

項目	設定
⑨棚停止	
⑩オートさそい	
⑪糸送り	
⑫上底切替	
⑬仕掛回収	ON
⑭巻上回数	0
⑮巻上時間	0分
⑯時計	06:23
⑰デモ画面	OFF

①[楽速切替]…

電動リールの楽楽モード・速度一定モードの切り替えが探見丸から操作可能です。

②[さそい]…

電動リールにさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。

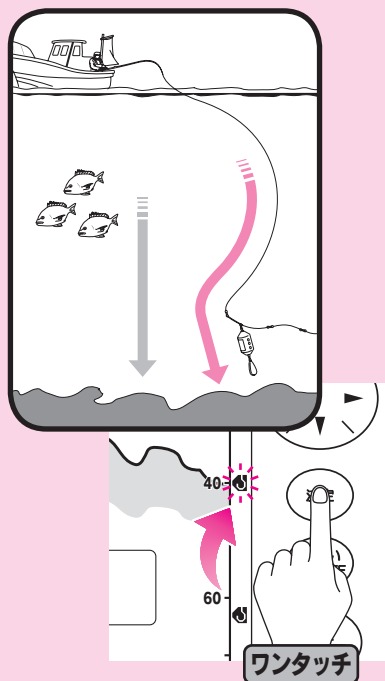
※電動リール側からのさそい「ON/OFF」はできません。探見丸側からのみとなります。

※イラストはイメージです。

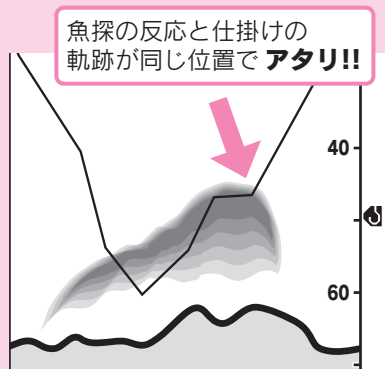
③[さそい幅]…

さそい動作を行う幅の指定ができます。

⑤ [位置補正]…

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。（右図）探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

※電動リールからは位置補正できません。探見丸からのみ操作できます。

⑧ [シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。

⑪ [糸送り]…（本製品には対応いたしません。）

電動リールの自動糸送り機能の [ON]・[OFF] が探見丸から操作可能です。

⑫ [上底切替]…（本製品には対応いたしません。）

電動リール水深表示の [上から]（水面から）・[底から] を探見丸から設定できます。

⑬ [仕掛回収]…

[ON] にするとレバー回収時に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。

⑭ [巻上回数]…

[ON] にすると船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数がメニュー画面の巻上回数欄に表記されます。

⑮ [巻上時間]…

[ON] にするとモーターが作動していた時間がメニュー画面の巻上時間欄に表記されます。

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

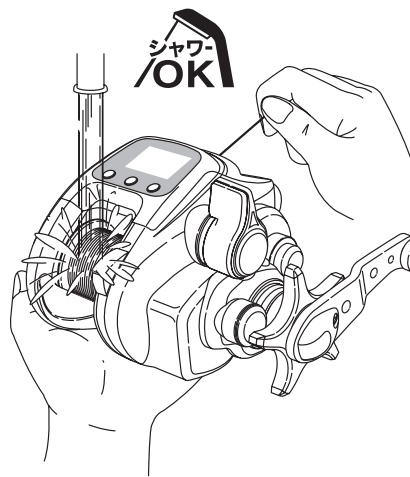
1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ずケーブルを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかり締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
   ※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を２～3m 出します（図参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

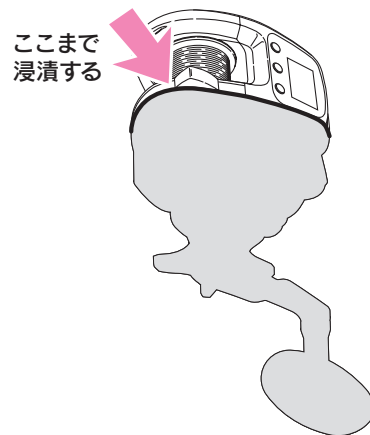
※ベアリングの塩カミについて

S A-RB（シールド耐塩水ベアリング）はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法（スプール回転性能に低下が見受けられた場合）

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合（リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合）

※ケーブルは必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて（右図参照・リール全体を浸水させないでください。）スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能が UP します。
2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
   （リール内部に溜まった水を完全に排水させます。）
   上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けますと、ドラグ部分のグリス焼け→ドラグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようご注意下さい。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。
- 偏光グラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用下さい。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A（BT-021B）をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合がございます。（その場合、電動リールの液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

次ページにつづく

●糸巻き形状について多少の凹凸がありますが、ご使用上何ら支障はございません。(右図はイメージです。)

●「脚調整シート」のご使用方法

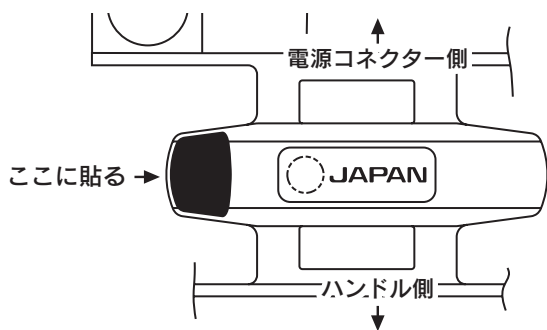
ご使用になるロッドのリールシートの形状によりましては、リールがしっかりと固定されずガタが出る場合があります。このような場合、同梱の「脚調整シート」をご利用ください。

1. リールの脚裏に挿絵の様に片側だけ（リールシートのネジフードに入り込む側）に貼っていただき、ガタが止まったかどうか確認してください。

2. 1を行ってもガタが止まらない場合は、もう片方の脚裏にもシートを貼ってください。その際、リールシートとの掛かり代が十分であるかご確認ください。3mm以上リールシート内に入り込んでいればＯＫです。

3. 2の様に両方に貼ってもガタが止まらない場合は、規格外となりますのでご使用をお止めください。

※ご注意

リール脚裏の両方に貼ってしまうと、リールシートとの掛かり代が少なくなり、最悪の場合、リールが外れてしまう場合があります。

4 お手入れの方法

●定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼下さい。

リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に１度はお預けいただくことをおすすめいたします。

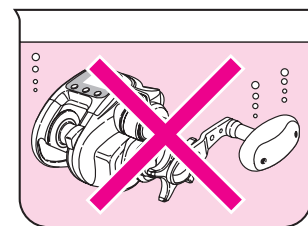
●保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

●リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。

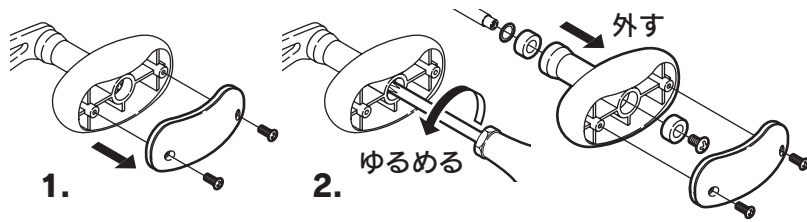
●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。

●ドラグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。

●高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

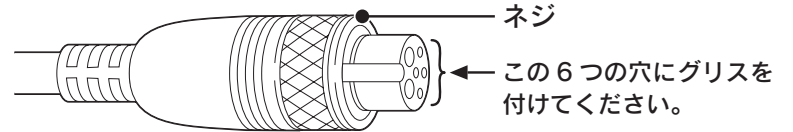
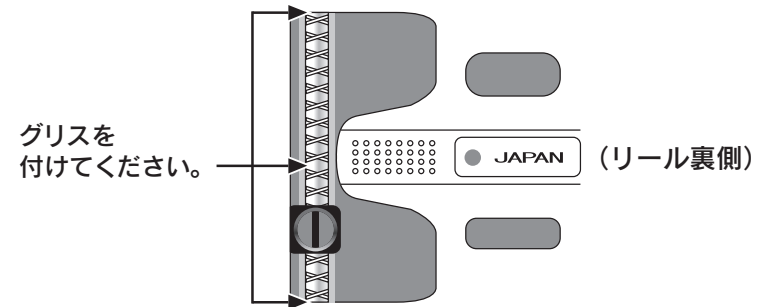
●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。
(カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。)

●ハンドルノブの取り外し方

1. ネジ 2 本をゆるめて、ハンドルノブ銘板を外します。

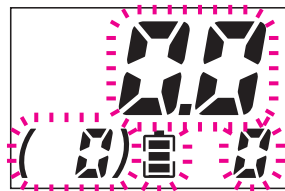
2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。

●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。
〔図 1〕、〔図 2〕の箇所に付けていただくようお願いします。

シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

〔図 1〕ケーブルの端子の 6 つの穴

リール本体側のケーブルの端子にも塗布していただくと、より効果的です。

〔図 2〕ウォームシャフトとウォームシャフト両側

5 セーフティ機能

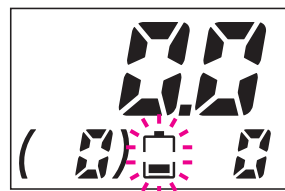
●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため１秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、全表示が点滅します。

作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに５分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。) 点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。

ご注意：

- ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
- ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～３分程度の時間がかかります。

●バッテリー検出表示

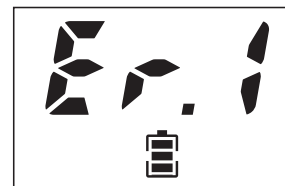
バッテリー電圧が10.5V（リチウムイオンバッテリーは13.5V）以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字が点滅します。

絵文字が点滅しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。

●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」の項目を参照していただき、修理に出してください。

> ※下記の Er 表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

●電圧が高すぎる場合

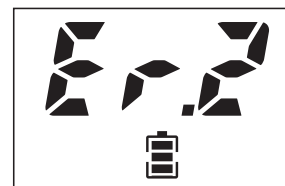
DC28V以上の電圧がかかった場合に表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかお確かめください。

●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

仕様

最大巻上力	最大ドラグ力	最大巻上速度	実用巻上速度			実用巻上持久力
			1kg（負荷）	2kg（負荷）	3kg（負荷）	
27kg / 264N	9.0kg / 88.2N	175m/分	120m/分	114m/分	105m/分	4.4kg / 43.1N

最大巻上力

※参考値

最大ドラグ力

本製品の最大ドラグ力は、スタードラグを25kg・cmのトルクで締めこんだ時のドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

最大巻上速度

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば1000番のリールならPE4号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。
その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は12.5V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

長時間耐久維持できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

品番	商品コード 製品コード	ギア比	自重(g)	糸巻量(号-m) PE[パワープロ デプスハンター船]	糸巻量(号-m) フロロ	最大巻上長(cm/ハンドル1回転)	スプール寸法(径mm/幅mm)	ハンドル長(mm)	ベアリング数(S A-RB/ローラー)
PLAYS 800	02912 5RG420800	5.1	600	3-300　4-250 **3-200***	4-300　5-230 6-180	70	44/28.8	60	6/1
PLAYS 1000	02913 5RG421000	5.1	600	3-400　4-300 5-200　**3-300***	5-270　6-200	70	44/33.4	60	6/1

＊ 糸巻量の太字は、スプールの下巻きライン部まで下巻きをした場合です。

●標準付属品

ケーブル1本（Type-B）、取扱説明書、分解図、
糸通しピン、保証書、脚調整シート2枚、
下巻きゲージ（リール小箱に印刷されていますので、切り取ってご使用ください。）

※本製品に付属しているケーブルはType-Bです。

●電源（直流）

DC12V（リチウムイオンバッテリー可）

●夢屋パーツ取り付け可能

ハンドル	ハンドルノブ
BH-3　BH-4　BH-5　**専用品**	B

●ご注意

PE3号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの（＋）（－）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.16～17
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることにより カウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 0m～1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.37～38 P.40
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P.16～17 P.14

《次ページに続く》

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクター部分がサビていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.16～17
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターにErの文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P.54
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいます様お願いいたします。
（1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。）
以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

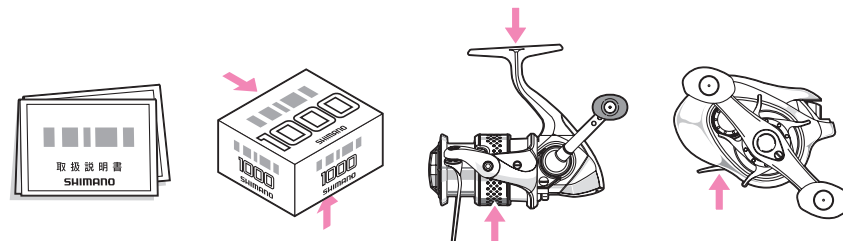
●修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず､修理箇所､不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。
また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。
修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。
（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお薦めします。）

例／製品名　　：PLAYS 1000
　　商品コード：02913
　　製品コード：5RG421000
　　部品番号　：2
　　部品名　　：ハンドル

●弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後６年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後６年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上５ケタ及び商品コードを表示しています。又､製品には商品コードを表示しています。

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　北海道営業所
〒001-0925 札幌市北区新川5条1-3-50　TEL.(011)716-3301

株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10 TEL.(022)232-4775

株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17　TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ　静岡営業所
〒410-0807 静岡県沼津市錦町674　TEL.(055)962-3983

株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3-77　TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941 岡山市南区青江6-6-18　TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1　TEL.(0875)23-2220

株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6　TEL.(0942)83-1515

株式会社シマノ釣具事業部　本　社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-861130（ハローイイサオ） フリーダイヤルをご利用できない方は **072-243-8538（有料）** をご利用下さい。 **受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土･日･祝日除く）**

■シマノホームページ　アドレスは **http://www.shimano.com** です。
新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。
また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■シマノi-mode情報　アドレスは **http://fishing.shimano.co.jp/i/** です。

Printed in Japan　039t

SHIMANO

●糸通しピン

(120410)